E. エルガーのオラトリオ作品研究：

《ゲロンティアスの夢》《使徒たち》《神の国》（付・歌詞対訳）

音楽芸術学科
秋岡　陽
Yo AKIOKA

エドワード・エルガーEdward William Elgar（1857-1934）はポスト=ヴァーグナー世代のイギリスの作曲家で、当時ヨーロッパの大陸側で活躍したマーラーGustav Mahler（1860-1911）やR. シュトラウスRichard Strauss（1864-1949）、あるいはドビュッシーClaude Debussy（1862-1918）よりも、わずかに年長ながら、彼らとほぼ同世代に属する。彼らが生まれ育ち青年期をすごした時代にヨーロッパ中で注目を集め、良くも悪くも大きな影響力をもっていたのがヴァーグナーRichard Wagner（1813-1883）だった。エルガーもまたポスト=ヴァーグナー世代の音楽家のひとりとして、好むと好まざるとにかかわらずヴァーグナーの音楽を意識しながら創作活動を展開してゆかざるをえなくなった作曲家のひとりである。本稿の目的は、ヴァーグナーの影響下にエルガーが作曲した大作のオラトリオ作品群をとりあげ、キリスト教音楽史に特異なしかし重要な位置を占めるこれらの作品群の特質と意義を明らかにすることにある。なかでも《ゲロンティアスの夢》は、日本での知名度はあまり高くないが、イギリスではヘンデルの《メサイア》やメンデルスゾーンの《エリヤ》とならんで今なお高い人気を保つオラトリオのスタンダード・ナンバーである。なお、今回のこの研究は、東京交響楽団によるエルガー・オラトリオ連続演奏会[1]と同時期にすすめられ、また同演奏会シリーズでは、本稿の筆者による歌詞対訳が使用された。

第１章　エルガーとオラトリオ

エルガーの生涯における、大規模な宗教合唱作品の位置づけ

エドワード・エルガーはウスターWorcester 近郊で楽器商を営む父親のもとに生まれた。カトリックの信仰をもつ母親の影響もあり、エルガーは地元のカトリックの学校に学び、また自身もカトリックの信仰をもつようになる。裕福な家庭に育ったわけではないエルガーは、15 歳になるといったんは就職するが、その後も独学で作曲や演奏活動を続け、16 歳以降は今度はフリーランスの音楽家として、地元で父の手伝いをしながらヴァイオリンを教えたり、アマチュア演奏団体の指揮者をするなどして生計をたてるようになった。1890 年前後、30 歳代になった彼は、ウスターやリーズなど各地の地方音楽祭のため

[1]東京交響楽団、大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第 61 回演奏会《神の国》（2002 年 3 月 9 日）；東京交響楽団、大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第 73 回演奏会《使徒たち》（2004 年 3 月 6 日）；東京交響楽団、大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第 79 回演奏会《ゲロンティアスの夢》（2005 年 3 月 5 日）。

に合唱曲を作曲するようになる。なかでも《命の光 The Light of Life》作品 29（1896）や《カラクタクス Caractacus》作品 35（1898）で一定の注目を集めた。また 1890 年代には、地方の音楽祭で歌われる宗教音楽作品の出版に興味を示したロンドンの音楽出版社ノヴェッロ Novello との交流も始まる。エルガーが地方の音楽祭のために作曲する合唱作品は、同時にノヴェッロからも楽譜が出版される、という関係ができあがった。

そうした地方の音楽需要にこたえる活動をしていたエルガーが一躍有名になるのは、世紀のかわり目の時期である。作曲家はすでに 40 歳になっていた。地方の無名の素人音楽家だった彼は、40 歳代にして突如、イギリスを代表する音楽家として国際的な注目を集めることになる。そのきっかけになったのが、管弦楽のための変奏曲《エニグマ Variations on an Original Theme ('Enigma')》作品 36（1899）と、新機軸の大規模合唱曲[2]《ゲロンティアスの夢 The Dream of Gerontius》（1900）の成功だった。こうした作品の成功によって、彼の楽壇での地位は確かなものになった。また、《ゲロンティアスの夢》の成功ののち、さらに彼は大規模な〈オラトリオ三部作〉の計画をたてている。その三部作とは《使徒たち The Apostles》作品 49、《神の国 The Kingdom》作品 51、《最後の審判 The Last Judgement》（未完）[3]の３つから構成され、完成の暁には、ヴァーグナーの《ニーベルングの指輪》四部作と同じように連続上演されるはずだった（しかし最終的に三部作のうち最初の２つだけ完成し、３作目の《最後の審判》は未完のまま残された）。今回の論文で取り上げるのは、彼の出世作となった《ゲロンティアスの夢》と、それに続く２つの大規模オラトリオ作品《使徒たち》《神の国》である。これらはいずれも日本での演奏頻度はあまり高くないが、イギリスではたいへんに人気の高い作品として繰り返し演奏され、重要な宗教合唱曲のレパートリーになっている（とくに《ゲロンティアスの夢》は《メサイア》《エリヤ》とならんで三大オラトリオと呼ばれることもある）[4]。

なお、こうした作品を完成させて名声を確立した後も、エルガーは生涯にわたり、イギリスを代表する作曲家として幅広く活動をおこない、名声をさらに高めた。1911-12 年にはロンドン交響楽団の指揮者をつとめるなど、指揮者としても活躍。また当時にわかに産業として確立をみたレコード業界で、初期のレコード録音にもたずさわり、自分の作品をいくつも録音して残した。

日本では、エルガーの名前は、当時の大英帝国の繁栄を象徴するような行進曲《威風堂々 Pomp and Circumstance Marches》作品 39（1901-1930）や、初期の小品である《愛の挨拶 Salut d'amour》（1888）などで有名になっている。さらに《エニグマ変奏曲》、《チェロ協奏曲》作品 85（1919）なども聞かれるが、しかし残念ながら今回とりあげる彼の大規模な宗教的合唱曲は日本では演奏される機会も少なく、そのため正しいエルガー像も見えてこない。いずれにせよ、現在日本でよく演奏されるレパートリーからは見えてこない、内省的な彼の一面がよく見えてくるのが宗教的合唱作品群である。こうした対照的な部分も見ることによって、エルガーの音楽の本当の豊かさも明らかになるはずである。

イギリスにおけるオラトリオの伝統とエルガー

16 世紀にイタリアで誕生したオラトリオは、17 世紀以降、バロック時代になると、当時流行のオペラの手法をとりいれて発展し、オペラやカンタータとならぶバロック時代の劇的声楽作品の主要ジャンルのひとつになった。ここで、一般に「オラトリオ」とよばれることになる曲種の特徴をあげると、以下のようにまとめることができる：

(1)ある程度の長さと物語性をもつドラマティックな音楽作品で、同時代のオペラと作曲法上の共通点が多い。しかし(2)歌詞の内容は原則として宗教的で、(3)演奏会形式で上演され（すなわち大道具や、役にあわせた衣装や、舞台上の演技はない）、(4)合唱が重視される、などの点で同時代のオペラとは異なる。

---

[2] この作品は今日一般にオラトリオと呼ばれているが、エルガー自身はとくにオラトリオという言葉は使っていない：「それがどのような作品であるか従来から存在する用語では説明できないのです there's no word invented yet to describe it」。

[3] この最後の作品は《聖人たち The Saints》《成就 The Fulfilment》といった題になる可能性もあった。

[4] エルガーのオラトリオを紹介する大友直人と東京交響楽団の一連の演奏会は、その意味でひじょうに貴重な機会を提供した。

すなわち、ある程度の長さをもち、しかも物語性をもっているという点で同時代のカンタータとは異なるのがオラトリオである。また、宗教的な内容を基本としているという点で、オラトリオはオペラと異なる。また、オペラと違い大道具・衣装・演技などを用いないということもオラトリオの特徴だが、これは「視覚的要素に制約されない」という意味で長所にもなり、舞台装置や衣装などを使ったのでは表現できないような時空を越える壮大なスケールの作品を表現できる可能性がひらかれることになる[5]。また、合唱を積極的に使ったため、一般大衆の合唱運動と結びつき、大勢の人が愛唱する作品を生み出せたのもオラトリオの特徴である。バロック時代のイギリスでは、ヘンデル George Frideric Handel [Georg Friedrich Händel]（1685-1759）が、英語オラトリオのとくに重要な作品群を残している。

イギリスでは、ヘンデル没後も、ヴィクトリア朝からエドワード朝時代を通じて、盛んにオラトリオが演奏された。19 世紀になって見られる顕著な特徴としては、当時形成されつつあった豊かな市民社会のなかで一般市民の合唱活動と結びついてオラトリオが歌われるようになったことである。前世紀の啓蒙主義的態度への反動から、信仰覚醒をめざす大衆伝道もさかんになるなか、市民による宗教曲の合唱活動が重要な意味をもった。当時、各地の市民音楽祭でも盛んにオラトリオなどの宗教的な合唱作品が演奏されている。なかでもとくに熱心にオラトリオを演奏してきた音楽祭としては、ウスターWorcester、バーミンガム Birmingham、リーズ Leeds の音楽祭が名高い[6]。実際、19 世紀のイギリスでは、オペラよりもむしろオラトリオのほうが人気が高かった。同時期の他のヨーロッパ諸国と大きく違う点である。当時のイギリスの作曲家たちにとってオラトリオを作曲するということは、建築家が大聖堂の建築の仕事をするのと同じような重要な意味をもった[7]。19 世紀はヨーロッパのどこでもおこったように、イギリスにおいても社会の世俗化がすすんだ。都市部では市民の教会離れがすすみ、そのいっぽうでリヴァイヴァルをめざす都市型大衆伝道も盛んにおこなわれるようになった。オラトリオの演奏会に行ったり、あるいは合唱祭などでオラトリオを歌うことは、日ごろ離れがちな教会にもどるための有効な手段と考えられた。

各地の音楽祭で変わらぬ高い人気を保ったのは、ヘンデルのオラトリオ、なかでもとくに《メサイア》だった。いっぽう後の時代の作曲家の新作も発表されている。1837 年には、メンデルスゾーン Felix Mendelssohn-Bartholdy（1809-1847）のオラトリオ《聖パウロ St. Paul (Paulus)》がバーミンガムの音楽祭で演奏された（ただし初演は 1836 年のニーダーライン音楽祭）。指揮をしたのは作曲者自身だった。また 1846 年には、同じくメンデルスゾーンの《エリヤ Elijah (Elias)》が、バーミンガム音楽祭で、やはり作曲者自身の指揮によって初演されている。ドヴォルジャーク Antonín Dvořák（1841-1904）もまた、イギリスの音楽祭に頻繁に招かれた作曲家である。1884 年以降、彼はしばしばイギリスに招かれ、指揮者として客演して好評を博す。1884 年の訪英のさいは、彼はウスター音楽祭に指揮者として客演し、そのさいオーケストラの第 1 ヴァイオリン奏者のなかにはエルガーがいた。ドヴォルジャークは 1885-1886 年にはリーズ音楽祭のためにオラトリオ《聖ルドミラ St. Ludmilla》作品 71 を作曲し、1887 年の同音楽祭で初演している。その他、彼の作品 89 の《レクイエム Requiem》（1890）も、1891 年のバーミンガム音楽祭で初演された作品である。

19 世紀末から 20 世紀にかけての世紀の変わり目の時期にも、イギリス各地の音楽祭では、なおオラトリオや、それに準ずる宗教作品に対する需要があった。そうした需要に応える形で、イギリスの作曲家もまたオラトリオを作曲している。代表的な作曲家としては、マッケンジーAlexander Campbell Mackenzie (1847-1935)、スタンフォード Charles Villiers Stanford (1852-1924)、パリーHubert Parry

---

[5] これは《ゲロンティアスの夢》に関してもいえる。《ゲロンティアスの夢》のような人間の死後の世界を描く作品では、誰も見たことがない死後の世界を舞台道具で表現するのは難しく、また肉体を離れた「魂」の役をどういう衣装でどう演じるのかということも大きな問題となる。ところがオラトリオの場合は視覚的な演出からまったくフリーになるため、イマジネーションを無限大にふくらませながらの創作・上演が可能になる。

[6] このうちウスターは、まさにエルガーが生まれ育つ場所で、彼とこうした音楽祭のあいだにはそもそも密接な関係があった。

[7] Howard E. Smither, *A History of the Oratorio: The Oratorio in the Nineteenth and Twentieth Centuries* (Chapel Hill: University of North Carolina Press, 2000), p.249.

(1848-1918) などがいる。この3名に共通した特徴は、高い教育を受けたアカデミズム出身の作曲家だったことである。いっぽう、この3人とほぼ同世代（やや年少）のエルガーもまたオラトリオの作曲を委嘱されるが、エルガーは音楽に関してはまったくの独学で、15歳で就職したあとはとくに学校教育は受けていなかった。1900年前後になってくると、イギリスでは作曲におけるアカデミズムの問題も論じられるようになる。大学や音楽院などで「正式に」教育をうけた作曲家が、自分たちの作曲方法が「正しい書法」にかなっていると主張するようになるなか、エルガーのように基本的に独学の作曲家はそうした作曲アカデミズムの埒外にあった。

エルガーの《ゲロンティアスの夢》は、バーミンガム音楽祭から委嘱され、1900年10月3日に、同音楽祭で初演された作品である。また、このバーミンガム音楽祭は、3年おきに開催される慣わしだった。そこで1900年の次は1903年、そのまた次は1906年……という間隔で新作が必要になる。こうして書かれたのが、《使徒たち》(1903年) と《神の国》(1906年) である。これらのオラトリオの完成の時期が3年間隔になっているのは、とりもなおさず、バーミンガムの音楽祭が3年おきに開催されたためにほかならない。前述のように《使徒たち》と《神の国》は、未完に終わった《最後の審判》とともに、エルガーの〈オラトリオ三部作〉を構成するはずだった。〈オラトリオ三部作〉の創作は、1901年ころから開始された。これはエルガーが一躍人気作曲家になった直後のことである。三部作のオラトリオはひとつずつ順に作られてゆき、完成の時期は同時ではない。しかしこれらは、もとは〈三部作〉というまとまりのなかで、同時に構想されたものである。また、第3部の《最後の審判》が完成したあかつきには、三部作のオラトリオを1日1作ずつ、3日に渡って連続上演することを想定していたらしい。

エルガーとカトリックの信仰

エルガーの父親は自身プロテスタントの信徒だったが、しかしウスターのローマ・カトリックの教会St. George's Roman Catholic Churchでオルガニストの職をつとめるようになった人物で、またエルガーの母親はカトリックの信徒だった。そうした関係からか息子のエドワードは地元のカトリックの学校で教育を受け、カトリックの信仰をもつようになる。エルガーが学んだカトリックの学校は、以下の3つである：(1)Miss Caroline Walshがウスターの Britannis Square 11で主催していた私塾（基本的には女子教育を目的とした私塾)、(2)Spetchley Parkにあった共学校St. Anne's School、(3)Francis ReeveがLower WickのLittleton Houseで経営していた職業訓練をともなう男子校[8]。こうした学校においてエルガーは幼いころからカトリックの教義に関する教育を受けた。

ここで当時のイギリスにおけるカトリック教会およりカトリック信徒のおかれた状況について考えておく必要がある。イギリスでは英国国教会の成立後カトリック信者が差別を受け、一定の公職から締め出される状況が続いていた。その後カトリック解放運動がおこり、1829年のカトリック解放法Catholic Emancipation Actによって、ようやくカトリック信徒の政治的・社会的な権利の回復へのきざしが見られるようになる。エルガーが生まれたのは、数百年にわたるカトリックへの差別のあと、ようやくイギリスでもカトリック信者の権利の回復が達成されつつある時期だった。

こうした時期、カトリックの側では、どのようにして自分たちの存在を社会に対してアピールしていくのか、すべてが初めての経験の中での試行錯誤だった。また、体制側にしても、カトリック信徒の存在をきちんと認めることにしたものの、どうやって彼らを社会で受け入れていっていいのか、すべてが初めての経験の中での試行錯誤にならざるをえなかった。このことはエルガーという作曲家の存在そのもの関してもいえる。若いころ、エルガーは自分がカトリック信徒であるために差別を受け、しかるべき仕事のポストに着くことが出来なかった、という経験をしている。しかし徐々に彼をとりまく社会情勢が変わるなか、エルガーはやがてカトリック作曲家としての「アバターavater」[9]を演出しはじめる。

---

[8] Byron Adams ed., *Edward Elgar and His World* (Princeton: Princeton University Press, 2007), pp.12-14.

[9] Adams ed., *Edward Elgar and His World, op.cit.*, p.21.

すなわち、カトリックのミサに積極的に参加するようになり、インタビューに応じる際に自分がカトリック信徒であることをことさらに強調し、カトリック的な作品をあえて創作し、また自分が反カトリックの偏見によってどんなに不当に扱われたかという不平を友人たちにこぼすようになる[10]。《ゲロンティアスの夢》という作品は、実はきわめてカトリック的な内容の作品で、当時のプロテスタントの信徒にとって必ずしも受け入れられない内容をもっているのだが、あえてそうした作品を音楽祭の演奏曲目にあげてくるあたり、まさにこうした「アバター」のもとでの試行錯誤的な立ち回りであると考えざるをえない。いっぽう、こうした濃厚なカトリック色の作品を提案された音楽祭の運営委員会も、それを受け入れるのはまさに初めての経験で試行錯誤のなかでのことだったと思われる。このように両者にとって初めての経験の中での、試行錯誤の結果として誕生してきたのが《ゲロンティアスの夢》だった。

なお、これと関連して、《ゲロンティアスの夢》《使徒たち》《神の国》の３つのオラトリオの献辞がいずれも「A.M.D.G.」となっていることも興味深い。「A.M.D.G.」とはラテン語の「ad majorem Dei gloriam」の頭文字をとったもので、その意味するところは「神のさらなる栄光のために」である。このように自分の作品を神の栄光に帰することは、当時のイギリスの作曲家のあいだで一般的に行われることではなかった[11]。それをあえてしたところに、エルガーのカトリック信徒としての主張、あるいはカトリック信徒として当時の社会に対しことさら強調しようとした「アバター」を読み取ることもできよう。

ヴァーグナーの影響

1880年代のイギリスのオラトリオは、同時代のドイツの後期ロマン主義的なオラトリオの影響を濃厚に受けた。たとえば、半音階的な和声、ライトモティーフ的な手法、無限旋律的なフレーズ構成、連続する巨大な音響としての場面構成（アリアやレチタティーヴォごとに音楽に切れ目をつけることをしない）、などである。こうした作曲法は多分にヴァーグナーRichard Wagner（1813-1883）の楽劇Murikdrama の影響を受けたものと考えられる。イギリスのオラトリオにおけるこうした傾向が最も顕著にあらわれた作品として登場してくるのが、エルガーの1900年の《ゲロンティアスの夢》である[12]。

エルガーは一連のオラトリオを作曲する前後の時期に、頻繁にバイロイトを訪れてヴァーグナーの楽劇を研究し、その手法をいかしたオラトリオの創作を最初から企図していた。たとえば、《ゲロンティアスの夢》が初演される８年前、1892 年にバイロイトを訪れたエルガーは、《ニュルンベルクのマイスタージンガーDie Meistersinger von Nürnberg》《トリスタンとイゾルデ Tristan und Isolde》のほか、《パルジファル Parsifal》を２回みている。舞台鑑賞にさきだって、エルガーは事前にヴァーグナーのスコアを手に入れ、これを研究したうえで演奏を聞いている。また翌1893年にもふたたびバイロイトを訪れ、このときは《ニーベルングの指輪 Der Ring des Nibelungen》《タンホイザーTannhäuser》《トリスタンとイゾルデ》をみた。さらに翌年の 1894 年もバイロイトを訪れ、このときは《神々のたそがれ Götterdämmerung》《ニュルンベルクのマイスタージンガー》をみている。さらに《ゲロンティアスの夢》の初演後、1902年にもまたエルガーはバイロイトに詣でて、今後は自作のオラトリオ《使徒たち》のためのインスピレーションを模索している。この年、彼は《ニーベルングの指輪》の最初の３作《ラインの黄金 Das Rheingold》《ヴァルキューレ Die Walküre》《ジークフリート Siegfried》と、《パルジファル》をみている。

エルガーがヴァーグナーの音楽を意識しながら作曲したことは、彼がオラトリオの作曲中に出版社と取り交わした書簡の記述からも明らかである。また、社会もまたエルガーの音楽のなかのヴァーグナー的な響きを聴こうとした。たとえばエルガーを高く評価し、エルガーが有名になるきっかけを作った評論家バーナード・ショーGeorge Bernard Shaw（1856-1950）は、もともとヴァグネリアンであり、な

---

[10] *ibid.*

[11] *ibid.*

[12] Smither, *op. cit.*, p.257.

おかつアカデミズムに対する強い反感をもっていた。ショーはイギリスにおけるオラトリオの新作活動に対して概して批判的だったのだが、非アカデミズムの世界から登場したヴァグネリアンであるエルガーの作品に対しては高い評価をくだした。やがて1911年にショーはつぎのように書くことになる「イギリス独自の音楽の伝統はパーセルの死をもって途絶えたが、しかしエドワード・エルガーをもって復活した」[13]。

第2章　《ゲロンティアスの夢》

《ゲロンティアスの夢》の創作プロセス

エルガーの大規模オラトリオの最初の作品であり、彼の名を一躍有名にした《ゲロンティアスの夢》が作られたきっかけは、ある音楽祭からの作曲依頼だった。1898年11月、エルガーは1900年のバーミンガム音楽祭 Birmingham Triennial Festival で演奏するための宗教合唱曲の創作を委嘱される。その後しばらく、エルガーは何をテーマにした作品を書くか、台本選びにかなりの時間を要した。最初にエルガーが考えたのは、アウグスティヌスを題材にした宗教合唱作品だった。しかしバーミンガム音楽祭の運営委員会にそのことを提案したところ、題材が物議をかもす可能性があるという理由で採用されなかった。そこで彼は次に、彼が子供のころからずっと興味をもってきた使徒たちを題材にした合唱曲の創作を思い立ち、とくにユダを題材にとりあげることを考えた。実際にユダの物語を音楽化することを想定した旋律のスケッチなども書き始めている。そうこうするなかで、浮上してきたもうひとつの可能性が、カトリックの枢機卿ジョン・ヘンリー・ニューマン John Henry Newman（1801-1890）が書いた長編詩『ゲロンティアスの夢 The Dream of Gerontius』だった。ニューマンのこの長編の宗教詩を音楽化したいという考えは、この詩が出版された直後にエルガーがそれを読んで以来、長いことあたためてきたアイディアだった。しかしニューマンのこの詩はカトリック独自の死生観に基づく、人間の死後の世界を描いた特殊な詩だったので、これがいったいバーミンガムの音楽祭に提案して受け入れられるものかどうかを考えると言い出せずにいた。当時のイギリスでは、カトリックに対する偏見や差別がなおも根強く存在し、また、以前にドヴォルジャークがこの詩に基づくオラトリオを作曲しようとしたところ反対にあった経緯もあった。しかしここでエルガーはあえてこの詩への作曲を、音楽祭の運営委員会に提案してみる。その結果、思いがけぬ返事がかえってきた。1900年1月に、音楽祭の委員長 G. H. Johnstone から『ゲロンティアスの夢』でよいという返事を得たのである。

いったん台本が決まった後は、実際の作曲は比較的順調にすすんだ。1900年の夏にかけて、エルガーは《ゲロンティアスの夢》の創作に没頭する。この作品は、音楽祭での上演と同時に、ノヴェッロからの楽譜出版も同時に行われることになっていた。作曲がある程度すすむと、できたところまでの楽譜原稿をロンドンのノヴェッロに送り、それに対する出版社からのコメントやアドヴァイスの手紙がエルガーのもとに送られて来る、という形で頻繁に書簡が往復しており、創作のプロセスについてはかなり克明に記録が残っている[14]。記録によると、1900年6月6日にはエルガーはスコアをいったん完成させた（のちにさらに改訂）。初演は1900年10月3日に、ハンス・リヒターHans Richter の指揮によって行われている。

初演については、残念ながら演奏者側の準備に問題があり、エルガーが希望した通りの結果は得られなかった。しかしこの作品はのちにドイツで演奏され、高い評価を得て、作曲家の名前を一躍有名にした。ドイツでの演奏会として重要なのが、デュッセルドルフでの演奏会である。デュッセルドルフのニ

---

[13] Smither, *op. cit.*, p.300.

[14] Michael Kennedy, *Portrait of Elgar* (Oxford: Clarendon, 3rd ed., 1987), pp.108-112.

ーダーライン音楽祭ではまず 1901 年 12 月 19 日に第 1 回目の演奏が行われれ、大好評で迎えられた（ドイツ語訳の歌詞で上演）。さらに翌年の 1902 年 5 月 20 日にもこの作品はデュッセルドルフで演奏されている。この第 2 回目の演奏を聞いたリヒャルト・シュトラウスがこの曲を絶賛することにより、この作品の評価はさらに高まり、また作曲家エルガーの名はヨーロッパ中で一躍有名になった。その後、この作品は 1903 年 6 月 6 日にロンドンのウェストミンスター大聖堂でも演奏されて注目をあつめ、さらにフランスをはじめとするヨーロッパ各地（パリで演奏されたときはフォーレがオルガン・パートを演奏）、さらにはアメリカ合衆国（シカゴ、ニューヨーク）でも演奏されている。

ニューマンの『ゲロンティアスの夢』とその死生観

エルガーがテクストとして選んだ『ゲロンティアスの夢』は、カトリックの枢機卿ジョン・ヘンリー・ニューマン（1801-1890）の 1865 年の長編宗教詩で、エルガーの作品が初演された 1900 年には出版後すでに 35 年余りの時間が経過し、イギリスでは有名な宗教文学作品になっていた。原詩の作者ニューマンは、エルガーから見ると 50 歳余り年上にあたる。ニューマンは若い頃から英国国教会におけるオックスフォード運動の中心的な存在だったが、1845 年にカトリックに改宗、その後カトリックの司祭と枢機卿をつとめた。長いこと偏見と差別にさらされてきたイギリスのカトリック教会の復権に力のあった人物で、神学者としての代表的な著作に『キリスト教教理発展論 Essay on the Development of Christian Doctrine』（1845）、『アポロギア（自己弁明）Apologia pro vita sua』（1865-66）、『グラマー・オヴ・アセント（承認の原理）An Essay in Aid of a Grammar of Assent』（1870）などがある。彼はまた長編の宗教詩『ゲロンティアスの夢 The Dream of Gerontius』（1865）も残している。

ニューマンの『ゲロンティアスの夢』は、彼の友人の死をきっかけに書かれた長編詩で、1865 年の 4 月と 5 月に、イエズス会の定期刊行物に掲載されて発表されたのち、1866 年に単行本として出版された。この詩は、宗教的な内容をもつが、しかし聖書からテクストをとっているわけではない。カトリックの信仰を基礎としつつ、ニューマン独自の表現でまとめた、「人間の死」に関する詩である。したがってプロテスタント教会側から見ると、その表現や考え方は、必ずしも受け入れられるものではなかった。19 世紀、とくにヴィクトリア朝時代は、死生観、とりわけ人間は死後どうなるのかという問題をどう説明するかということに多くの人々が関心を寄せた時代だった。なお、1887 年にエルガーは、その 2 年後に結婚することになるアリス Caroline Alice Roberts がその母親を亡くしたとき、この婚約者にニューマンのこの詩を贈っている。

死後の個人の魂はどのような状態におかれるのか、ということに関する個人レベルでの終末論 individual eschatology は、当時の人々にとって今日以上に関心の的だった。そのことに関してひつの説明を試みたのがニューマンのこの詩である。この詩では、死後、肉体を離れた魂が、案内役の天使に導かれながら煉獄へ、そして最後の審判の館 House of Judgement へと入っていくまでが描かれる。そこからは、「最後の審判はいつ行われるのか？」「それは近い将来なのか、遠い未来なのか？」といった問に関する、ニューマンの「終末はきわめて近い」とする解釈も読み取れる：

Angel: Thou art not let; but with extremest speed
Art hurrying to the Just and Holy Judge.
天使：阻まれていません。あなたは大変な速さで
正しく聖なる審判へと向かっています。

さらには「きわめて近い」とするだけではなく、「それはすでに始まっている」というニューマンの終末論を読み取ることができる箇所もある：

Angel: Also, because already in thy soul

The judgement is begun

天使：あなたの魂の中では

すでに審判が始まっていたのです

作曲するには長すぎるニューマンの詩をテクストとするにあたり、エルガーはどこを割愛し、どこを作曲したのだろうか？　またそのさいに何らかの方針があったのだろうか？　楽曲の第１部（Part I）については、全部で７つの部分からなるニューマンの詩の第１部をかなりのパーセンテージでそのまま採用し、あまり省略を行っていない（原詩からの省略は30行足らず）。いっぽう、楽曲の第２部（Part II）ではニューマンの詩の第２部から第７部からきわめて大胆に行数を間引きしている。間引きの傾向については、以下の表からも明らかなように、カトリック色をやわらげ、大衆のロマン主義的趣向に迎合したと言うことができる。すなわち、表からもわかるように、とくに短くされた割愛部分は、ゲロンティアスを最後の審判の館へと案内する守護の天使の言葉（その30%だけが作曲に採用）と、煉獄の魂の言葉（その21%だけが作曲に採用）である。これらの歌詞は、いずれもカトリック色が濃厚な部分で、そうした部分を積極的に減らすことによって音楽作品のカトリック独自色を弱め、より一般に受け入れやすい配慮をしたことがわかる。とりわけ煉獄の魂の言葉の作曲率がきわめて低いが（21%）、煉獄の存在をそもそも否定するプロテスタント社会において、この作品を受け入れられやすくするための配慮だったのだろう。いっぽう悪魔の言葉はその76%が採用されていることも特徴的だが、ドイツでの初演のさい、この悪魔の合唱が当地のロマン主義的趣向にかなって絶賛されたこととも関連して興味深い。

表：第２部（Part II）における、ニューマン原詩の作曲採択率

	原詩の行数	作曲された行数	作曲率
ゲロンティアスの魂	184行	78行	42%
守護の天使	315行	93行	30%
天上の合唱	132行	60行	45%
悪魔	68行	52行	76%
煉獄の魂	23行	5行	21%

（上記の行数はPart IIのみの行数で、Part Iは含まない）

きわめてカトリック的なニューマンの『ゲロンティアスの夢』をテクストに選ぶことには相当に勇気と決断が必要だったが、しかしいったんそれを選んでしまえば、あとの作業は簡単だった。音楽化するにあたって長すぎる歌詞の行数を減らしさえすれば、あとは、ニューマンの詩はそもそも音楽化するのに適した詩だった。ニューマンは賛美歌《Lord, Kindly Light, amid the Encircling Gloom》[15]（1833）の作詞者としても知られる人物で、作詩法自体が音楽的である。『ゲロンティアスの夢』も全体が弱強５歩格 iambic pentameter を基本に整えられており、さらにそこに無韻詩節 blank verse による独白のセリフ（たとえばゲロンティアスの独白や守護天使の説明のセリフなど）が効果的に織り込まれる[16]。このようにそもそも音楽化に適した詩がテクストとなっているということは、《ゲロンティアスの夢》の大きな特徴で、のちの《使徒たち》や《神の国》が新約聖書の散文テクストをもとにしているのと大きく異なる点である。

---

[15] この賛美歌は今日日本語でも歌われている：『讃美歌21』第460番《やさしき道しるべの Lord, Kindly Light, amid the Encircling Gloom》。

[16] Stephen Banfiel, "The Dream of Gerontius at 100: Elgar's Other Opera?", *The Musical Times*, 141 (2000, Winter), p.24.

作品の構成

第１部（Part I）は、まず厳粛な雰囲気の前奏曲で始まる。ヴァーグナー風のライトモティーフの手法が使われた前奏曲で、「おそれ fear」「祈り prayer」「審判 judgement」などのモティーフが組織的に配置される[17]。作品の冒頭は、ゲロンティアスが死の床にあって、友人たちや司祭に見守られながら息絶えそうになっている瀕死の場面である。ゲロンティアスが地上での自分の肉体が力を失って行く不思議な体験のなかで主イエスと母マリアに最期の祈りをとなえると、死の床を囲むようにして集まった彼の友人たちもとりなしの祈りをとなえる。なお、冒頭の歌いだしは「Jesu, Maria—I am near to death」で始まる。イエスに対して「ジーザス Jesus」ではなく「ジーズ Jesu」とよびかけ、さらに母マリアにとりなしを祈る冒頭からして、きわめてカトリック色が強い。第１部の最後では、司祭がいよいよこの世からの旅立ちをラテン語で宣言する（「旅立ちなさい、キリスト者の魂よ、この世から！　Proficiscere, anima Christiana, de hoc mundo!」）。

第２部（Part II）では一転して、第１部とはまったく異なる別次元の世界でものがたりが始まる。そこではゲロンティアスの魂は肉なる体を離れ、案内役の天使に導かれながら、死後の世界へと進んで行くことになる。これまで経験したことのない感覚、そしてこれからどこへ行くのかわからない不安のなかで、ゲロンティアスの魂は案内役の天使に何度も何度も質問をする。その問答のなかから明らかにされてくるのは、「人間は死後どうなるのか、そしてどこへ行くのか」という説明である。ニューマン独自の終末論が展開される部分である。天使によって導かれ、悪魔による堕落へのいざないから守られながら、ゲロンティアスの魂は「大変な速さで with extremest speed」最後の審判へと向かってゆく。やがて天上の合唱の汚れない声が「いと高きところでは、聖なる方をほめたたえよ Praise to the Holiest in the height」と響き渡るなか、ゲロンティアスの魂と案内役の天使は「審判の館 House of Judgement」の門をくぐる。そこは煉獄の魂たちが神をほめたたえ、また地上にのこしてきた者たちの祈りの声がこだまして伝わってくる場所で、ゲロンティアスの魂はそこにしばしの安らぎと試練の場所を与えられ「明日また目覚めさせに来ます」という天使の別れの言葉を最後にこの作品は幕を閉じる。

第３章　《使徒たち》

オラトリオ三部作

エルガーは、少年時代から、使徒たちの召命の物語にひじょうに強い興味をもっていた。イエス・キリストは福音の宣教を始めるにあたって、12 人の使徒を選んだ。しかしその 12 人は、選び出される前は、とりたてて家柄の良い人だったわけでもなくとくに高い教育を受けた人たちでもなかった。むしろ彼らは、ごく普通の人々だったのである。その話を、エルガーは少年時代に学校の校長から聞かされ、大きな感銘を覚えた。後年〈オラトリオ三部作〉を作るにあたって、彼はそうした使徒たちの物語に着目したわけだが、その原点は、こうした少年時代の感動にあった。

〈オラトリオ三部作〉の創作は、1901 年ころから開始された。エルガーが一躍人気作曲家になった直後のことである。〈三部作〉のうち、第１部の《使徒たち》は 1903 年に完成し、第２部の《神の国》は 1906 年に完成し、第３部の《最後の審判》は未完に終る、という具合に、３つのオラトリオの完成の時期はそれぞれ異なる。しかしこれらは、もとは〈三部作〉というまとまりのなかで、同時に構想されたものである。また、第３部の《最後の審判》が完成したあかつきには、三部作のオラトリオを１日１作ずつ、３日に渡って連続上演することを想定していた。

〈三部作〉という構想に、ヴァーグナーの楽劇からの影響を見ることもできよう。またそれ以外にも、

[17] Jerrold Northrop Moore, *Edward Elgar: A Creative Life* (Oxford: Oxford University Press, 1984), pp.299-302.

これらのオラトリオには、さまざまな形で、ヴァーグナーからの影響がうかがえる。たとえば、歌詞を作曲家自身が書く、というのもそのひとつである。エルガーは、以前は、別の人が用意した歌詞をもとにオラトリオの作曲を行なっていた（たとえば《ゲロンティアスの夢》）。ところが〈三部作〉の《使徒たち》や《神の国》では、自分自身で台本を書くところから創作をはじめている。同じように自分自身で台本を書くところから創作をはじめたヴァーグナーの影響を、そこに見ることができよう。さらに、《神の国》の第Ⅴ場における〈主の晩餐〉の場面は、ヴァーグナーの《パルジファル》における聖杯の儀式の場面から影響を受けているとも言われる。ちなみに、エルガーは、1892年にバイロイトで《パルジファル》を2度観ている。また、この〈オラトリオ三部作〉を通じて、特定のモティーフが、あたかもライトモティーフ（示導動機）のように用いられていることも指摘しておきたい。

《使徒たち》の創作プロセス

1902年の秋、エルガーはあわただしく新作オラトリオのためのリブレットの用意と、音楽のスケッチを始めた。1903年のバーミンガム音楽祭のために作曲の委嘱を受けたのである。このとき彼は、イエス・キリストの使徒たちを扱ったオラトリオを作ることを思い立ち、友人の聖職者たちに台本の妥当性について相談をしている。彼は使徒たちを扱ったオラトリオを、三部作として仕上げる計画を立てた。なお、前回の《ゲロンティアスの夢》の場合と異なり、使徒たちの物語を題材に選んだ時点で、前作のようにカトリック色の強い作品になる可能性はなくなった。1902年10月、出版社のノヴェッロとの間で、新作に関する契約が取り交わされる。その後、指揮活動などで忙しい日常をおくるなか、1903年の春から夏にかけて急速にスコアを完成させることになる[18]。

《ゲロンティアスの夢》によって一躍世界的に認められたエルガーが次に何を書くか、次なる新作《使徒たち》は創作当初からたいへんな注目をあつめた。それに答えるかのように、出版社ノヴェッロは秋の初演に先立って「前打ち」の記事を同社発行の音楽雑誌『The Musical Times』に掲載する。1903年4月には「Dr. Elgar's New Oratorio: 'The Apostles'」（『The Musical Times』第44巻［1903年］4月号、pp. 228-229）という記事が、1903年6月には「"The Apostles"」（同誌の第44巻［1903年］6月号、pp. 449-450）という記事が掲載される。事前告知の宣伝であると同時に、初演のための「予習」の機会を聴衆に提供する配慮がなされていたことがわかる。

初演は1903年10月14日にエルガー自身の指揮により、バーミンガムのタウン・ホールで行われた。前回の《ゲロンティアスの夢》の初演のときとは対照的に、《使徒たち》の初演は大成功に終わった[19]。前打ちの記事により周到に準備がなされ、また前評判も高まっていたところに、前回とは異なり十分に準備された一流の演奏家たちが初演に参加することにより、計画通りの成功をおさめたといってもいい。

作品の構成

オラトリオ《使徒たち》では、新約聖書のなかからさまざまな情景 tableaux[20]が次々に抜き出され、それが併置されるような形で全体が構成される。内容的には、使徒たちが集められる場面から始まり、その後イエスとともにすごした時間が第1部でうたわれたのち、第2部からはイエスの受難・復活・昇天にいあわせた使徒たちの言行が次の順に歌われていく：

プロローグ
第1部
　1．使徒たちの召命
　2．路傍で（山上の説教）

---

[18] Michael Kennedy, *The Life of Elgar* (Cambridge: Cambridge University Press, 2004), pp.87-91.

[19] Aidan J. Thomson. "Early Reviews of The Apostles in British Periodicals," in Byron Adams ed., Edward Elgar and His World (Princeton: Princeton University Press, 2007), pp.127-172.

[20] Charles Edward McGuire, *Elgar's Oratorios: The Creation of an Epic Narrative* (Aldershot: Ashgate, 2002), pp.191-193.

3．ガリラヤ湖のほとりで
マグダラの塔で
フィリポ・カエサリア地方で
カファルナウムで
第２部
4．裏切り
大祭司の屋敷で
神殿で
5．ゴルゴタ
6．墓で
7．昇天

《ゲロンティアスの夢》の時と違って、今回の三部作はヴァーグナーにならってテクストもエルガー自身が用意することになったのだが、しかし巨大な規模の台本を書くために必要な力がヴァーグナーほどはなかった現実は否めない。エルガーは基本的に聖書の記述を抜粋して、それを編集してテクストとした。しかし抜粋のしかたにかなりの偏りがある。もともと《使徒たち》と題しているところからも、主イエス・キリストに関する記述よりも、その周辺の使徒たちの記述を中心に選ぶことは理解できる。しかし使徒たちのなかでもリーダー格だったペトロの記述には重きを置いていない。いっぽう使徒たちのなかで不自然なまでに偏重されたているのがユダと、そしてマグダラのマリアの２人である。このうちユダについては、エルガー自身、少年時代からそもそもこの人物の生き方に共感をもっていたと言われる。エルガー自身も、カトリックの楽器商の息子として、当時のヴィクトリア朝の社会にあって「アウトサイダー」的位置に置かれた。そうした原体験が、同じように傍流におかれたマージナルな存在としてのユダに心ひかれる原因となった可能性がある[21]。いっぽう、マグダラのマリアもまた、全体のなかでバランスを失するほどに偏重されている。マグダラのマリアの歌が、作品中にしめる割合がひじょうに大きいことに関しては、初演当初からそれを問題視する意見があった。《使徒たち》と題したこの作品のなかで、必須の要素とはいえないマグダラのマリアの歌をなぜここまで長く挿入しなければいけないのか？という意見である[22]。そもそも《使徒たち》の第１部の第３景「マグダラの塔で Tower of Magdale」という場面は、そのもととなる聖書の記述がない。このように聖書の記述によらない長大なエピソードを挿入した理由について、Byron Adams はヴァーグナーの楽劇からの影響を指摘する[23]。いずれにせよ、人間の罪と、そして贖罪とを前面に押し出そうとしすぎた結果と考えられる。

第４章　《神の国》

聖霊降臨

《神の国》は、エルガーの〈オラトリオ三部作〉の中間に位置するはずの作品だった。このことを覚えておくことは、《神の国》の音楽の性格を理解するうえで大切である。つまり、３楽章構成の曲でいえば、中間の緩徐楽章に相当することになる。そして、その次に、激しく劇的な《最後の審判》の音楽が続くはずだったのである。《神の国》の音楽のもつ清澄さは、そうした観点からも理解されよう。

前作の《使徒たち》では〈使徒たちの召命〉から〈イエス・キリストの昇天〉までを扱った。それに対して、エルガーのオラトリオ《神の国》では〈聖霊降臨〉の物語が取り上げられる。その意味でこの

---

[21] Byron Adams, "Elgar's Later Oratorios: Roman Catholicism, Decadence, and the Wagnerian Dialectic of Shame and Grace", in Grimley and Rushton eds., *The Cambridge Companion to Elgar* (Cambridge: Cambridge University Press, 2004), pp.98-99.
[22] Adams, "Elgar's Later Oratorios," *op. cit.*, p.94.
[23] Adams, "Elgar's Later Oratorios," *op. cit.*, pp.96-98.

オラトリオは、《使徒たち》の「後日談」だと言える。

したがって、すでに昇天してしまっているイエスは、このオラトリオには「直接は」登場しない。このオラトリオの主な登場人物は、あとに残された使徒たちや、婦人たちである。ただし、曲の冒頭でペトロが引用するイエスの言葉「2人または3人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる Where two or three are gathered together in My Name, there am I in the midst of them.」(『マタイによる福音書』第18章第20節)にもあるように、この作品を通じてつねにイエス・キリストはそこにいることは忘れてはならない。

イエス・キリストは、十字架にかかって死んだのち、3日目に復活し、その後40日間にわたってたびたび使徒たちに姿を現したが、40日目に使徒たちの目の前で天にのぼった。その昇天ののち10日目、すなわち五旬祭(ペンテコステ)の日に、使徒たちに聖霊が遣わされる。これが〈聖霊降臨〉である。〈聖霊降臨〉の物語については、聖書の『使徒言行録』にその記述がみられる。エルガーは、この『使徒言行録』の第1章、第2章、第3章、第4章を中心に引用を行ない、さらにそこに自身のコメントを加えるかたちで歌詞を作成した。

《神の国》の創作プロセス

前述のように《神の国》は、〈オラトリオ三部作〉の第2作として、1901年に作曲の構想が始められた。突如人気作曲家になったエルガーの日常は忙しかった。そうしたなかで書きためられたスケッチを、彼は1905年の暮から、1906年秋の初演までの期間に、いっきにまとめあげる。

彼はまず、1905年の暮から1906年の正月にかけて、スケッチのまとめを行なった。1906年1月中旬には、《神の国》の冒頭部分の楽譜が、出版社のノヴェッロに送られている。途中、4月にアメリカ合衆国を訪問したため、作曲の作業は中断したが、帰国後はさらにピッチをあげて作業がすすめられた。7月23日には作曲の作業を完了。7月29日にはオーケストレーションに着手し、その後驚くべきスピードでそれを行ない、8月24日にはオーケストレーションを完成した。8月7日付のエルガーの手紙には「1週間に70ページもスコアを書き上げています」と書かれている。

《神の国》の台本は、聖書からの引用を中心に、エルガー自身によってまとめられた。彼は、音楽を推敲するだけでなく、歌詞の推敲もおこたらなかった。しかしエルガー自身は、とりたてて深い神学的な素養があったわけではない。彼はあくまでも音楽家だった。そのため、知人の聖職者たちに熱心に相談しつつ、歌詞の推敲を続けた。

こうして1906年の9月の末には、オーケストラを交えての、最初の練習にこぎつけた。初演は1906年10月3日に、バーミンガムで行なわれた。初演の指揮は、エルガー自身が行なっている。演奏会場は満員。《神の国》の初演を聞くために、各界の名士がずらり顔を揃えたと言われる。初演は成功裡に終った。翌日の新聞には、成功を伝える記事とともに、合唱団員による次のような証が掲載された。「エドワード・エルガー卿は、彼のすばらしい作品を指揮しながら、みずからも感きわまり、オラトリオの演奏中、幾度となく彼の頬を涙が伝って流れた」。

作品の構成

《神の国》の主要な登場人物は、イエスに従った弟子たちと、婦人たちである。最初にも述べたとおり、聖霊降臨は、主の昇天のあとであるため、イエス自身は「直接には」登場しない。これらの弟子や婦人たちのなかでも、エルガーはとくに、ペトロ、ヨハネ、イエスの母マリア、マグダラのマリアの4人に重要な役割を与えている。このうち、ペトロとヨハネはイエスの使徒であり、なかでもペトロは、その中心的な存在である。いっぽう、マグダラのマリアは、「7つの悪霊」を追いだしてもらって以来イエスに従うようになった女性とされ、イエスの死、埋葬、復活に立ち会った女性である。

物語の舞台はエルサレム。イエスが天に上げられたあと、使徒と婦人たちはエルサレムにもどり、「泊まっていた家の上の部屋」にあがった。この「上の部屋」、すなわち、英語で「アッパー・ルーム upper

room」とよばれ、口語訳聖書では「屋上の間」、文語訳聖書では「高楼」と訳されていた場所から、物語は始まる。

オラトリオ《神の国》は、全体が５つの場面から構成されている。５つの場面は、「アッパー・ルーム」→「美しい門」→「アッパー・ルーム」→「美しい門」→「アッパー・ルーム」の順に場面を移してゆく。このように、全体はシンメトリカルな構成をもつが、しかしこれは偶然そうなったのではない。聖書の物語に忠実に従うと、このようなシンメトリカルな構成はでてこない。エルガーの創作的な意図がそこに働いている。全体が美しいアーチ（門）を描くように、あえてこのように構成したのである。

以下、それぞれの場面ごとに、物語の内容を追ってみよう。

第Ⅰ場：オーケストラによる前奏曲のあと、ひきつづきアタッカ（切れ目なし）で第Ⅰ場が始まる。舞台は前述の「アッパー・ルーム」。その部屋には、ペトロ、ヨハネをはじめとする使徒たちと、イエスの母マリア、マグダラのマリアなどが集い、心を合せて熱心に祈っている。この場面の後半では、ペトロ（バス）が立ち上がり、「死んだユダに代る、新しい使徒が選ばれるべきである」と人々に説明する。そこでくじがひかれ、マティアスが新しく使徒の仲間に加えられることになった。一同マティアスの選出を喜び、また聖霊の力をたたえて場面を終る。

第Ⅱ場：場面は一転して、エルサレムの神殿の境内にある「美しい門」とよばれる門の場面になる。時は五旬祭（ペンテコステ）の日の朝。イエスの母マリア（ソプラノ）とマグダラのマリア（コントラルト）が登場して、二重唱を歌う。それは、かつてイエスが神殿において、足の不自由な人や目の見えない人を癒されたことを回想する歌である。なお、この場面は聖書の『使徒言行録』の記述のなかには見当たらない。エルガーが、後につづく第Ⅳ場の「美しい門」の場面を意識した上で、あえて挿入したものと思われる。つまり、この場面を挿入することによって、全体がシンメトリカルなアーチ状の構成をとることになるのである。

第Ⅲ場：この場面は、全体のハイライトとなる場面であり、『使徒言行録』第２章の記述を中心に、〈聖霊降臨〉の物語が展開される。場所はふたたび「アッパー・ルーム」、すなわち「上の部屋」から始まる。冒頭部分でテノールとコントラルトがソロを歌うが、それぞれヨハネやマグダラのマリアの役ではなく、〈弁者〉あるいは受難曲における〈福音書記者〉のような役割を与えられている。ここに、バッハの受難曲からの影響を見ることもできよう。さて、一同が集っていると、そこに約束の聖霊が遣わされる。聖霊がくだると、使徒たちは、霊が語らせるままに様々な国の言葉を話しだし（多言奇跡）、勇気に満たされて神の偉大な業について宣べ伝えはじめた。キリスト教における、原始教会の設立と、世界宣教の発端を象徴する出来事が、ここでおこるのである。その後、この場面の後半では、ペトロ（バス）が再び立ち上がり、祈りの先頭に立って神の言葉をとりつぎ、力強く人々を励ます。

第Ⅳ場：ふたたび神殿の「美しい門」の場面になる。聖霊によって力を与えられたペトロは、ここで足の不自由な男を癒す。使徒たちが行なう、最初の奇跡である。ペトロはさらに、奇跡を見て驚き集まってきたイスラエルの人たちに向かって、この奇跡は「イエス・キリストの名によって in the Name of Jesus Christ」おこったことを説き、さらに「悔い改めて立ち帰りなさい」と人々にせまる。しかしそこへ、ペトロの説教を快く思わない祭司たちがやってきて、ペトロとヨハネを捕らえてしまう。すでに日は暮れかかっていた。ここでイエスの母マリアが、美しい独白のアリアを歌い、この〈夕べの歌〉をもって第Ⅳ場を終える。

第Ⅴ場：みたび「アッパー・ルーム」（上の部屋）に場所を移す。逮捕の翌日、釈放されたペトロとヨハネが、仲間たちのところに戻ってきた。２人は、議会で取り調べを受けたときの様子を皆に語り聞かせる。話を聞いた信者たちは、釈放の経緯を知って喜び、さらに心をひとつにして祈りを重ねる。パンをさいて聖餐がとりおこなわれ、さらに全員によって〈主の祈り〉が唱えられる。そして、神への恭順を誓いつつ、静かに祈りを終える。

参考文献

Adams, Byron. "The 'Dark Saying' of the Enigma: Homoeroticism and the Elgarian Paradox", *19th-Century Music*. 23/3(2000), pp. 218-235.

Adams, Byron ed. *Edward Elgar and His World*. Princeton: Princeton University Press, 2007.

Adams, Byron. "Elgar's Later Oratorios: Roman Catholicism, Decadence, and the Wagnerian Dialectic of Shame and Grace", in Grimley and Rushton eds., *The Cambridge Companion to Elgar* (Cambridge: Cambridge University Press, 2004), pp.81-105.

Banfield, Stephen. "The Dream of Gerontium at 100: Elgar's Other Opera?", *The Musical Times*. 141 (2000, Winter), pp.23-31.

Butt, John. "Roman Catholicism and being Musically English: Elgar's Church and Organ Music", in Grimley and Rushton eds., *The Cambridge Companion to Elgar* (Cambridge: Cambridge University Press, 2004), pp.106-119.

Grimley, Daniel M., and Rushton, Julian (eds.). *The Cambridge Companion to Elgar*. Cambridge: Cambridge University Press, 2004.

Harper-Scott, J.P.E. *Edward Elgar, Modernist*. Cambridge: Cambridge University Press, 2006.

Kennedy, Michael. *The Life of Elgar*. Cambridge: Cambridge University Press, 2004.

Kennedy, Michael. *Portrait of Elgar*. Oxford: Clarendon, 3rd ed., 1987.

McGuire, Charles Edward. *Elgar's Oratorios: The Creation of an Epic Narrative*. Aldershot: Ashgate, 2002.

McGuire, Charles Edward. "Measure of a Man: Catechizing Elgar's Catholic Avatars", in Byron Adams ed., *Edward Elgar and His World* (Princeton: Princeton University Press, 2007), pp.3-37.

Moore, Jerrold Northrop Moore. *Edward Elgar: A Creative Life*. Oxford: Oxford University Press, 1984.

Riley, Matthew. *Edward Elgar and the Nostalgic Imagination*. Cambridge: Cambridge University Press, 2007.

Smither, Howard E. *A History of the Oratorio: The Oratorio in the Nineteenth and Twentieth Centuries*. Chapel Hill: University of North Carolina Press, 2000.

Thomson, Aidan J. "Early Reviews of The Apostles in British Periodicals", in Byron Adams ed., *Edward Elgar and His World* (Princeton: Princeton University Press, 2007), pp.127-172.

エルガー：オラトリオ《ゲロンティアスの夢》作品 38

Edward Elgar, *The Dream of Gerontius*, opus 38

歌詞対訳：秋岡　陽[24]

PART I

第１部

Prelude

前奏曲

Gerontius:

Jesu, Maria - I am near to death,
And Thou art calling me; I know it now.
Not by the token of this faltering breath,
This chill at heart, this dampness on my brow, -
(Jesu have mercy!
Mary, pray for me!)
'Tis this new feeling, never felt before,
(Be with me, Lord, in my extremity!)
That I am going, that I am no more,
'Tis this strange innermost abandonment,
(Lover of souls! great God!
I look to Thee,)
This emptying out of each constituent
And natural force, by which I come to be.
Pray for me, O my friends; a visitant
Is knocking his dire summons at my door,
The like of whom, to scare me and to daunt,
Has never, never come to me before;

So pray for me, my friends, who have not
strength to pray.

ゲロンティアス：

イエス様、マリア様、私はもうすぐ死にます。
あなたが呼んでいるのが、私にはわかります。
息が途切れ、
胸が苦しく、額に汗が浮かぶだけではありません。
（イエス様、あわれんでください！
　マリア様、私のために祈ってください！）
今までこんな感覚を味わったことがないのです。
（共にいてください、主よ、私のいまわの際に！）
私は逝きます。私はいなくなるのです。
心の底がからっぽになる不思議な気持ち、
（魂を慈しまれる、偉大なる神よ！
　私はあなたに、より頼みます）
私が私であるために必要な、形あるものすべてと、
与えられた力のすべてが、消えてゆきます。
私のために祈ってください、ああ、友よ、
不吉な知らせを持った者が扉をたたいています、
これほど恐ろしく、気力を失わせる訪問者は
今まで来たことがありません[25]；

ですから友よ、私のために祈ってください、
私はもう祈る力もないのです。

Assistants:

Kyrie eleison.
Holy Mary, pray for him.
All holy Angels, pray for him
Choirs of the righteous, pray for him.

友人（従者）たち：

キリエ・エレイソン（主よあわれんでください）[26]、
聖母マリアよ、彼のために祈ってください。
すべての聖なる天使よ、彼のために祈ってください。
義人の聖歌隊よ、彼のために祈ってください。[27]

---

[24]この歌詞対訳は、2005 年 3 月 5 日に行われた東京交響楽団・大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第 79 回演奏会のために用意したものをもとに、今回あらたに改訂を加えたものである。

[25] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲している：'Tis death,—O loving friends, your prayers!-'tis he! / As though my very being had given way, / As though I was no more a substance now, / And could fall back on nought to be my stay, / (Help, loving Lord! Thou my sole Refuge, Thou,) / And turn no whither, but must needs decay / And drop from out the universal frame / Into that shapeless, scopeless, blank abyss, / That utter nothingness, of which I came: / This is it that has come to pass in me; / Oh, horror! this it is, my dearest, this;

[26] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Christe eleison, Kyrie eleison.

All Apostles, all Evangelists,
pray for him.
All holy Disciples of the Lord,
pray for him.
All holy Innocents,
pray for him.
All holy Martyrs, all holy Confessors,
All holy Hermits, all holy Virgins,
All ye Saints of God, pray for him.
pray for him.

すべての使徒たちよ、すべての福音書記者たちよ、
彼のために祈ってください。
すべての聖なる、主の弟子たちよ、
彼のために祈ってください。
すべての聖なる、罪なき嬰児殉教者たちよ、
彼のために祈ってください。
すべての聖なる殉教者たちと、証聖者たちよ、
すべての聖なる隠修士たちと、聖なる乙女たちよ、
すべての、神の聖人たちよ、
彼のために祈ってください。

Gerontius:
Rouse thee, my fainting soul, and play the man;
And through each waning span
Of life and thought as still has to be trod,
Prepare to meet thy God.
And while the storm of that bewilderment
Is for a season spent,
And ere afresh the ruin on me fall,
Use well the interval.

ゲロンティアス：
くじけそうな私の魂よ、雄々しく奮い立て；
残された生の道のりを
遅々とした歩みでたどりながら
神の御前に立つ準備をするのだ。
心に嵐が吹き荒れ、
途方に暮れる時が続こうとも、
気持ちが粉々に砕かれないうちに
うまく合間をぬって進むのだ。

Assistants:
Be merciful, be gracious; spare him, Lord.
Be merciful, be gracious; Lord, deliver him.
From the sins that are past;
From Thy frown and Thine ire;
From the perils of dying;
From any complying
With sin, or denying
His God, or relying
On self, at the last;
From the nethermost fire;
From all that is evil;
From power of the devil;
Thy servant deliver,
For once and for ever.
By Thy birth, and by Thy Cross,
Rescue him from endless loss;
By Thy death and burial,
By Thy rising from the tomb,

友人（従者）たち：
慈しみ深き主よ、彼を助けてください。
恵にあふれる主よ、彼を救ってください。
すぎし日の過ちから、
あなたの御怒りから、
死の恐怖から、彼を救ってください。
罪に関わり、
神を拒み、
ついには
みずからの力に、より頼んだとしても、
地獄の業火から、
邪悪なものすべてから、
悪鬼の力から、彼を救ってください。
あなたの僕（しもべ）を救ってください、
今この時に、そして永遠に。
あなたの降誕と十字架によって
彼を永遠の喪失から救ってください。
あなたは死んで埋葬され、
墓から蘇り、

[27] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Holy Abraham, pray for him. / St. John Baptist, St. Joseph, pray for him. / St. Peter, St. Paul, St Andrew, St. John,

By Thy mounting up above,
By the Spirit's gracious love
Save him in the day of doom.

天へと昇り、
聖霊の慈愛を注がれました。その慈しみによって、
どうか、最後の審判の日に、彼を救ってください。

Gerontius:
Sanctus fortis, Sanctus Deus,
De profundis oro te,
Miserere, Judex meus,
Parce mihi, Domine.
Firmly I believe and truly
God is Three, and God is One;
And I next acknowledge duly
Manhood taken by the Son.
And I trust and hope most fully
In that Manhood crucified;
And each thought and deed unruly
Do to death, as He has died.
Simply to His grace and wholly
Light and life and strength belong.
And I love, supremely, solely,
Him the holy, Him the strong.
Sanctus fortis, Sanctus Deus,
De profundis oro te,
Miserere, Judex meus,
Parce mihi, Domine.
And I hold in veneration,
For the love of Him alone,
Holy Church, as His creation,
And her teachings, as His own.
And I take with joy whatever
Now besets me, pain or fear,
And with a strong will I sever
All the ties which bind me here.
Adoration aye be given,
With and through the angelic host,
To the God of earth and heaven,
Father, Son and Holy Ghost.

ゲロンティアス：
聖なる、力強き神よ、
深い淵から、あなたに祈ります。
あわれんでください、私の審判者よ。
私を赦してください、主よ。
私は固く信じます、
　神は三つにいまして一つであることを。
さらに、私は認めます、
　あなたの御子が人の子となったことを。
そして、私は、
　十字架にかけられた御子イエスに、より頼みます。
考えることや為すことが乱れようとも、
　御子が息絶えた時のように、死に向き合います。
ただひとえに、御子の恩寵から、
　光も、生命も、力も来るもの。
何にもまして、ただひたすら私は愛します、
　聖なる方、力強いあの方を。
聖なる、力強き神よ、
深い淵から、あなたに祈ります。
あわれんでください、私の審判者よ。
私を赦してください、主よ。
私は敬います、
　ただ主への愛ゆえに、
主によって建てられた聖なる教会と、
　主の教えである教会の教えとを敬います。
私は今、何が私を取り囲んでも、
　痛みであれ、恐怖であれ、喜んで受けいれます。
そして強い気持ちをもって、
　私をここに縛りつける縄目を断ち切ります。
今、私は崇めます——
　天の大軍の声に合わせて、
天地の造り主なる神を崇め、
　父・子・聖霊を崇めます。

Sanctus fortis, Sanctus Deus,
De profundis, oro te,
Miserere, Judex meus,
Mortis in discrimine.

聖なる、力強き神よ、
深い淵から、あなたに祈ります。
あわれんでください、私の審判者よ。
死の時にも、どうか省みてください。

I can no more; for now it comes again,

もう無理です、またあの感覚が戻ってきました、

That sense of ruin, which is worse than pain,	すべてがこわれそうな、痛みよりつらい感覚、
That masterful negation and collapse	私という人間をつくりあげているすべてが
Of all that makes me man….	否応なく打ち消され、崩れ落ちていく感覚……[28]。
And, crueller still,	さらに惨いことに、
A fierce and restless fright begins to fill	すさまじい恐怖の念がじわじわとやむことなく
The mansion of my soul. And worse, and worse,	私の心の棲家に入り込んできます。
Some bodily form of ill	それでも足りずに、何か禍々しきものが
Floats on the wind, with many a loathsome curse	風の中に漂い、忌まわしい呪いをまきちらし
Tainting the hallowed air, and laughs, and flaps	聖なる大気を汚しながら笑い声をあげ、
Its hideous wings,	見るもおぞましい翼をはためかせています。
And makes me wild with horror and dismay.	私は恐怖におののき、うろたえるばかりです。
O Jesu, help! pray for me, Mary, pray!	イエス様、マリア様、私のために祈ってください！
Some Angel, Jesu! such as came to Thee	誰か天使を遣わしてください、イエス様！
In Thine own agony….	あなた御自身がお苦しみになった時のように……
Mary, pray for me. Joseph, pray for me.	マリア様、ヨセフ様、私のために祈ってください。
Mary, pray for me.	マリア様、私のために祈ってください。
Assistants:	**友人（従者）たち：**
Rescue him, O Lord, in this his evil hour,	ああ主よ、この苦しみの時から彼を救ってください。
As of old, so many by Thy gracious power:	昔からあなたの慈悲で多くの者が救われました[29]。
Noe from the waters in a saving home;	箱舟で洪水から家族とともに救われたノア、
(Amen.)	（アーメン）[30]
Job from all his multi-form and fell distress;	ありとあらゆる悩み苦しみから解放されたヨブ、
(Amen.)	（アーメン）[31]
Moses from the land of bondage and despair;	奴隷の地での絶望の生活から導き出されたモーゼ、
(Amen.)	（アーメン）
David from Golia and the wrath of Saul;	ゴリアテとサウルの憤怒から逃れたダビデ……。
(Amen.)	（アーメン）
. . . - So, to show Thy power,	ですからお願いです、あなたの力を示し、あなたの
Rescue this Thy servant in his evil hour.	この僕（しもべ）を、苦しみの時から救ってください。
Gerontius:	**ゲロンティアス：**
Novissima hora est; and I fain would sleep,	終わりの時が来ています。私は眠りたいのです、
The pain has wearied me. . . . Into Thy hands,	痛みに疲れ果てました。あなたの御手のなかへ、
O Lord, into Thy hands. . . .	ああ主よ、あなたの御手の中へ……

[28] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：as though I bent / Over the dizzy brink / Of some sheer infinite descent; / Or worse, as though / Down, down for ever I was falling through / The solid framework of created things, / And needs must sink and sink / Into the vast abyss.

[29] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Enoch and Elias from the common doom; (Amen.)

[30] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Abraham from th' abounding guilt of Heathenesse; (Amen.)

[31] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Isaac, when his father's knife was raised to slay; (Amen.) / Lot from burning Sodom on its judgment-day; (Amen.)

The Priest and Assistants:
Proficiscere, anima Christiana, de hoc mundo!
Go forth upon thy journey, Christian soul!
Go from this world! Go, in the Name of God
The Omnipotent Father, Who created thee!
Go, in the Name of Jesus Christ, our Lord,
Son of the Living God, Who bled for thee!
Go, in the Name of the Holy Spirit,
Who Hath been poured out on thee!
Go in the name
Of Angels and Archangels; in the name
Of Thrones and Dominations; in the name
Of Princedoms and of Powers; and in the name
Of Cherubim and Seraphim, go forth!
Go, in the name of Patriarchs and Prophets;
And of Apostles and Evangelists,
Of Martyrs and Confessors, in the name
Of holy Monks and Hermits; in the name
Of holy Virgins; and all Saints of God,
Both men and women, go! Go on thy course;
And may thy place today be found in peace,
And may thy dwelling be the Holy Mount
Of Sion: - through the Same, through Christ our Lord.

司祭と友人（従者）たち：
旅立ちなさい、キリスト者の魂よ、この世から！
さあ、旅立ちなさい、キリスト者の魂よ！
この世から旅立ちなさい！　神の名によって、
あなたを創った全能の父の名によって！
行きなさい、主イエス・キリストの名によって、
あなたを養った、生ける神の子の名によって！
ゆきなさい、聖霊の名によって、
あなたに注がれてきた聖霊の名によって！
さあ、行きなさい、
天使たちと大天使たちの名によって、
座天使と主天使の名によって、
権天使と能天使の名によって、
ケルビムとセラピムの名によって、旅立ちなさい！
族長たちと預言者たちの名によって、
使徒たちと福音書記者たちの名によって、
殉教者たちと証聖者たちの名によって、
聖なる修道士たちと隠修士たちの名によって、
聖女たちと神の聖人すべての名によって、
男も女も行くのです！　あなたの道を進みなさい；
願わくば、今日あなたが平安の内に居所をみつけ、
聖なるシオンの丘があなたの棲家となるように。
私たちの主、キリストによって祈ります。

PART II

第２部

Soul of Gerontius:
I went to sleep; and now I am refreshed
A strange refreshment: for I feel in me
An inexpressive lightness, and a sense
Of freedom, as I were at length myself,
And ne'er had been before. How still it is!
I hear no more the busy beat of time,
No, nor my fluttering breath, nor struggling pulse;
Nor does one moment differ from the next.

This silence pours a solitariness
Into the very essence of my soul;

ゲロンティアスの魂：
私は眠っていました。今は目がさめて
不思議なほど清々しい気持ちです。
たとえようもなく軽やかな、自由な気持ちで
ようやく自分自身になれたような
これまでにない気持ちです。なんという静けさ！
せわしなく時をきざむ音も聞こえず
息の切れる音も、脈が乱れ打つ音も聞こえず、
刻々の変化を感じない悠久の時が流れています[32]。

この静けさゆえに、独りぼっちであることが
私の魂の芯までしみわたります。

[32] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：I had a dream; yes;—some one softly said / "He's gone;" and then a sigh went round the room. / And then I surely heard a priestly voice / Cry "Subvenite;" and they knelt in prayer. / I seem to hear him still; but thin and low, / And fainter and more faint the accents come, / As at an ever-widening interval. / Ah ! whence is this? What is this severance?

And the deep rest, so soothing and so sweet,	その深い安らぎは、心なごませ甘やかでありながら
Hath something too of sternness and of pain.	何かしら一抹の厳しさと痛みをも感じさせます。[33]
Another marvel: someone has me fast	さらに不思議なことには、誰かが私をしっかりと
Within his ample palm; . . .	その大きな手のひらで捉えて放さないのです……[34]
. . . A uniform	変わることのない、おだやかな緊張感のなか、
And gentle pressure tells me I am not	私は自分の力で動いているわけではなく、この道
Self moving, but borne forward on my way.	を進むべく生かされたのだと教えてくれます。
And hark! I hear a singing; yet in sooth I	お聴きなさい！　歌っている声が聞こえます。
cannot of that music rightly say	その調べを聴くことも触れることも味わうことも
Whether I hear, or touch, or taste the tones.	本当にできているのか自分でもわかりませんが
Oh, what a heart-subduing melody!	それでも、ああ、なんと心なごむ調べでしょう！
Angel:	**天使（ゲロンティアスの守護天使）**：
My work is done,	私の仕事は終わりました、
My task is o'er,	務めは果たしました。
And so I come,	だから私は連れて行きます、
Taking it home	その者が住まうべき場所へと。
For the crown is won,	栄えある冠は手に入ったのです、
Alleluia,	アレルヤ、
For evermore.	とこしえに。
My Father gave	父なる神は私に
In charge to me	おあずけになりました、
This child of earth	この地上の子を。
E'en from its birth	その誕生の時から
To serve and save.	仕え、救うために。
Alleluia,	アレルヤ、
And saved is he.	今、彼は救われました。
This child of clay	土からつくられたこの者は
To me was given,	私にあずけられ、
To rear and train	育てられ、しつけられました。

[33] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：For it drives back my thoughts upon their spring / By a strange introversion, and perforce / I now begin to feed upon myself, / Because I have nought else to feed upon myself. / Am I alive or dead? I am not dead, / But in the body still; for I possess / A sort of confidence which clings to me, / That each particular organ holds its place / As heretofore, combining with the rest / Into one symmetry, that wraps me round, / And makes me man; and surely I could move, / Did I but will it, every part of me. / And yet I cannot to my sense bring home / By very trial, that I have the power. / 'Tis strange; I cannot stir a hand or foot, / I cannot make my fingers or my lips / By mutual pressure witness each to each, / Nor by the eyelid's instantaneous stroke / Assure myself I have a body still. / Nor do I know my very attitude, / Nor if I stand, or lie, or sit, or kneel. / So much I know, not knowing how I know, / That the vast universe, where I have dwelt, / Is quitting me, or I am quitting it. / Or I or it is rushing on the wings / Of light or lightning on an onward course, / And we e'en now are million miles apart. / Yet ... is this peremptory severance / Wrought out in lengthening measurements of space / Which grow and multiply by speed and time? / Or am I traversing infinity / By endless subdivision, hurrying back / From finite towards infinitesimal, / Thus dying out of the expansive world?

[34] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：'tis not a grasp / Such as they use on earth, but all around / Over the surface of my subtle being, / As though I were a sphere, and capable / To be accosted thus,

By sorrow and pain	悲しみ痛みをくぐりぬけ
In the narrow way,	狭き道をたどりながら
Alleluia,	アレルヤ、
From earth to heaven.	地上から天国をめざしてきたのです。
Soul:	**魂**：
It is a member of that family	この天使は、あのすばらしい家族の一員。
Of wond'rous beings, who, ere the world were made,	この世がつくられる以前から、
Millions of ages back, have stood around	幾万年もの昔から、
The throne of God.	神の玉座のまわりにいた、あの天使の一員[35]。
I will address him. Mighty one, my Lord,	その方に伺いましょう。力強き方、わが主、
My Guardian Spirit, all hail!	私の守護の霊よ、ようこそ！
Angel:	**天使**：
All hail!	ようこそ！　わたしの子、
My child and brother, hail! what wouldest thou?	わたしの兄弟よ。あなたは何をしたいのです？
Soul:	**魂**：
I would have nothing but to speak with thee	私はあなたと話がしたい。とにかく
For speaking's sake. I wish to hold with thee	話したいのです。あなたの心と
Conscious communion; though I fain would know	共にありたいのです。あつかましく、
A maze of things, were it but meet to ask,	無作法だと思われるかもしれませんが
And not a curiousness.	知りたいことがやまほどあるのです。
Angel:	**天使**：

[35]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：—he never has known sin / But through those cycles all but infinite, / Has had a strong and pure celestial life, / And bore to gaze on the unveil'd face of God, / And drank from the everlasting Fount of truth, / And served Him with a keen ecstatic love. / Hark! he begins again.
Angel: O Lord, how wonderful in depth and height, / But most in man, how wonderful Thou art! / With what a love, what soft persuasive might / Victorious o'er the stubborn fleshly heart, / Thy tale complete of saints Thou dost provide, / To fill the thrones which angels lost through pride! / He lay a grovelling babe upon the ground, / Polluted in the blood of his first sire, / With his whole essence shatter'd and unsound, / And coil'd around his heart a demon dire, / Which was not of his nature, but had skill / To bind and form his op'ning mind to ill. / Then was I sent from heaven to set right / The balance in his soul of truth and sin, / And I have waged a long relentless fight, / Resolved that death-environ'd spirit to win, / Which from its fallen state, when all was lost, / Had been repurchased at so dread a cost. / Oh, what a shifting parti-colour'd scene / Of hope and fear, of triumph and dismay, / Of recklessness and penitence, has been / The history of that dreary, life-long fray! / And oh, the grace to nerve him and to lead, / How patient, prompt, and lavish at his need! / O man, strange composite of heaven and earth! / Majesty dwarf'd to baseness! fragrant flower / Running to poisonous seed! and seeming worth / Cloking corruption! weakness mastering power! / Who never art so near to crime and shame, / As when thou hast achieved some deed of name; / How should ethereal natures comprehend / A thing made up of spirit and of clay, / Were we not task'd to nurse it and to tend, / Link'd one to one throughout its mortal day? / More than the Seraph in his height of place, / The Angel-guardian knows and loves the ransom'd race.
Soul: Now know I surely that I am at length / Out of the body; had I part with earth, / I never could have drunk those accents in, / And not have worshipp'd as a god the voice / That was so musical; but now I am / So whole of heart, so calm, so self-possess'd, / With such a full content, and with a sense / So apprehensive and discriminant, / As no temptation can intoxicate.
Nor have I even terror at the thought / That I am clasp'd by such a saintliness.
Angel: All praise to Him, at whose sublime decree / The last are first, the first become the last; / By whom the suppliant prisoner is set free, / By whom proud first-borns from their thrones are cast; / Who raises Mary to be Queen of heaven, / While Lucifer is left, condemn'd and unforgiven.

You cannot now	あなたは今、かなわぬ望みを
Cherish a wish which ought not to be wished.	抱くことはありません。
Soul:	**魂**：
Then I will speak: I ever had believed	それでは申しましょう：これまで私は、
That on the moment when the struggling soul	もがき苦しむ魂がこの世に別れを告げる時には
Quitted its mortal case, forthwith it fell	すぐさま恐れ多い神の御前に落ちて、
Under the awful Presence of its God,	審判を受け、しかるべきところへ送られると
There to be judged and sent to its own place.	信じてきました。
What lets me now from going to my Lord?	私が今、御前に行くのを何が阻むのでしょう？
Angel:	**天使**：
Thou art not let; but with extremest speed	阻まれてはいません。あなたは大変な速さで
Art hurrying to the Just and Holy Judge.	正しく聖なる審判へと向かっています[36]。
Soul:	**魂**：
Dear Angel, say,	親愛なる天使よ、教えてください、なぜ私は
Why have I now no fear of meeting Him?	今あの方に会うのが怖くないのでしょう？
Along my earthly life, the thought of death	この世にあった時にはずっと、死や審判のことを
And judgment was to me most terrible.	考えるだけでも恐ろしかったのに[37]。
Angel:	**天使**：
It is because	これまで恐れていたからこそ、
Then thou didst fear; that now thou dost not fear.	今はもう恐れなくてよいのです。
Thou hast forestalled the agony, and so	あなたはすでに苦しみを乗りこえました。
For thee bitterness of death is passed.	死の辛さも拭い去られたのです。
Also, because already in thy soul	あなたの魂の中では
The judgement is begun.	すでに審判が始まっていたのです。
A presage falls upon thee, as a ray	一筋の光があなたのゆく手を告げています。
Straight from the Judge, expressive of thy lot.	あなたの運命を告げる裁きから放たれる光です。
That calm and joy uprising in thy soul	あなたの心にわきあがる喜びと落ち着きは
Is first-fruit to thee of thy recompense,	あなたが報われることのあかし、
And heaven begun.	天に近づいたあかしなのです[38]。

[36]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：For scarcely art thou disembodied yet. / Divide a moment, as men measure time, / Into its million-million-millionth part, / Yet even less than that the interval / Since thou didst leave the body; and the priest / Cried "Subvenite," and they fell to prayer; / Nay, scarcely yet have they begun to pray. / For spirits and men by different standards mete / The less and greater in the flow of time. / By sun and moon, primeval ordinances — By stars which rise and set harmoniously — By the recurring seasons, and the swing, / This way and that, of the suspended rod / Precise and punctual, men divide the hours, / Equal, continuous, for their common use. / Not so with us in the immaterial world; / But intervals in their succession / Are measured by the living thought alone, / And grow or wane with its intensity. / And time is not a common property; / But what is long is short, and swift is slow, / And near is distant, as received and grasp'd / By this mind and by that, and every one / Is standard of his own chronology. / And memory lacks its natural resting-points / Of years, and centuries, and periods. / It is thy very energy of thought / Which keeps thee from thy God.

[37]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Now that the hour is come, my fear is fled; / And at this balance of my destiny, / Now close upon me, I can forward look / With a serenest joy.

Soul:
Now that the hour is come, my fear is fled;
And at this balance of my destiny,
Now close upon me, I can forward look
With a serenest joy.
But hark! upon my sense
Comes a fierce hubbub, which would make me fear
Could I be frighted.

魂：
その時が近づいて、私の恐れも消え去りました。
私の運命がどちらにも偏ることなく
すぐそこに迫ってきた今、
あくまでも静かな喜びと共に待ち受けています。
しかしどうでしょう！　私の耳には
震え上がるような恐ろしい声が聞こえてきて
身もすくみそうです。

Angel:
We are now arrived
Close on the judgement-court; that sullen howl
Is from the demons who assemble there,
Hungry and wild, to claim their property,
And gather souls for hell. Hist to their cry!

天使：
私たちはやっと審判の法廷に近づいたところです。
あのまがまがしい咆哮は
そこに集まっている悪魔たちが[39]
飢えて凶暴になり、自分達の分け前を求め、地獄
に送る魂を集めようとしているのです。静かに！

Soul:
How sour and how uncouth a dissonance!

魂：
なんて不愉快で異様な響きでしょう！

Demons:
Low born clods
Of brute earth,
They aspire
To become gods,
By a new birth,
And an extra grace,
And a score of merits,
As if aught
Could stand in place
Of the high thought,
And the glance of fire
Of the great spirits,
The powers blest;
The lords by right,
The primal owners,
Of the proud dwelling
And realm of light,
Dispossessed,

悪魔たち：
卑しい生まれの
野蛮な地上の奴らが、
のぼせあがって大志をいだき、
自ら神になろうとする。
新しい生を受け、
特別の恩寵を受け、
しこたま褒美を手に入れようとする。
それにしても一体どうしたら
神の考えに
近づけるというのか。
偉大なる聖霊の
炎が見えるというのか。
権力を手に入れ、
支配力を与えられ、
富を手に入れ、
立派な家に住んで
輝かしい王国を手に入れようとも、
やがては追い落とされ、

---

[38]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：That day of doom, / One and the same for the collected world,— / That solemn consummation for all flesh, / Is, in the case of each, anticipate / Upon his death; and, as the last great day / In the particular judgment is rehearsed, / So now, too, ere thou comest to the Throne,
[39]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：It is the middle region, where of old / Satan appeared among the sons of God, / To cast his jibes and scoffs at holy Job. / So now his legions throng the vestibule,

Aside thrust,	突き飛ばされ、
Chucked down,	放り出される。
By the sheer might	ありったけの力で
Of a despot's will,	暴君の気の向くまま、
Of a tyrant's frown,	怒りのままに、放り出される。
Who after expelling	暴君はみんなを追い出しても
Their hosts, gave,	まだあきたらず
Triumphant still,	勝ちどきの声をあげ、
And still unjust,	不公平なことも、やりたい放題。
Each forfeit crown	奪い取った冠のひとつひとつを、
To psalm-droners,	もの憂げに詩編を読み上げる者に、
And canting groaners,	もったいぶってうめくやつらに、
To every slave,	すべての奴隷に、
And pious cheat,	敬虔なふりをしているやつらに、
And crawling knave,	はいずりまわって
Who licked the dust	足元の塵までなめていたやつらに、
Under his feet.	かぶせるのだ。
Angel:	**天使**：
It is the restless panting of their being;	あの絶え間ないあえぎ声の主は
Like beasts of prey, who, caged within their bars,	格子の檻に入れられた猛獣のような者どもで、
In a deep hideous purring have their life,	喉の奥で不気味な音を鳴らしながら
And an incessant pacing to and fro.	ひっきりなしに行ったり来たりしているのです。
Demons:	**悪魔たち**：
The mind bold	大胆に考え、
And independent,	誰にも頼らず、
The purpose free,	自由な意志を持てと、
So we are told,	俺たちは教えられてきた。
Must not think	先祖がいることなど
To have the ascendant.	考えてはいけないと。
What's a saint?	聖人ってのは、一体なんだ？
One whose breath	そいつの吐く息は
Doth the air taint	くたばる前に
Before his death;	空気を汚す；
A bundle of bones,	ひとにぎりの骨を
Which fools adore,	ばかどもが拝む、
When life is o'er.	一生の終わり、っていう時に。
Ha! Ha!	ハ！　ハ！[40]

[40]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：When life is o'er; / Which rattle and stink, / E'en in the flesh. / We cry his pardon! / No flesh hath he; / Ha! ha! / For it hath died, / 'Tis crucified / Day by day, / Afresh, afresh, / Ha! ha! / That holy clay, / Ha! ha! / This gains guerdon, / So priestlings prate, / Ha! ha! / Before the Judge, / And pleads and atones / For spite and grudge, / And bigot mood, / And envy and hate, / And greed of blood.

Virtue and vice,	美徳も悪徳も、
A knave's pretence.	仮面をかぶったならず者。
'Tis all the same,	みんな同じことだ、
Ha! Ha!	ハ！　ハ！
Dread of hell-fire,	地獄の火が怖く、
Of the venomous flame,	毒々しい炎が怖い、
A coward's plea.	泣き言を言う臆病者には、
Give him his price,	その代価を払わせろ。
Saint though he be,	そいつが聖人だとしたら、
From shrewd good sense	抜け目なく先をよんで
He'll slave for hire,	せっせと働くことだろう、
Ha! Ha!	ハ！　ハ！
And does but aspire	そいつの望みはただひとつ、
To the heaven above	天国に上がることだが
With sordid aim,	いやしい狙いがあっての話、
And not from love.	愛ゆえに、なんて
Ha! Ha!	お笑いぐささ！
Soul:	魂：
I see not those false spirits; shall I see	私はあんな偽りの霊は見ません。主の玉座の前に
My dearest Master, when I reach His throne?	着けば、最愛の主に会えるのでしょうか？[41]

Soul: How impotent they are! and yet on earth / They have repute for wondrous power and skill; / And books describe, how that the very face / Of the Evil One, if seen, would have a force / Even to freeze the blood, and choke the life / Of him who saw it.
Angel: In thy trial-state / Thou hadst a traitor nestling close at home, / Connatural, who with the powers of hell / Was leagued, and of thy senses kept the keys, / And to that deadliest foe unlock'd thy heart. / And therefore is it, in respect of man, / Those fallen ones show so majestical. / But, when some child of grace, Angel or Saint, / Pure and upright in his integrity / Of nature, meets the demons on their raid, / They scud away as cowards from the fight. / Nay, oft hath holy hermit in his cell, / Not yet disburden'd of mortality, / Mock'd at their threats and warlike overtures; / Or, dying, when they swarm'd, like flies, around, / Defied them, and departed to his Judge.
[41] このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Or hear, at least, His awful judgment-word / With personal intonation, as I now / Hear thee, not see thee, Angel? Hitherto / All has been darkness since I left the earth; / Shall I remain thus sight-bereft all through / My penance-time? If so, how comes it then / That I have hearing still, and taste, and touch, / Yet not a glimmer of that princely sense / Which binds ideas in one, and makes them live?
Angel: Nor touch, nor taste, nor hearing hast thou now; / Thou livest in a world of signs and types, / The presentations of most holy truths, / Living and strong, which now encompass thee. / A disembodied soul, thou hast by right / No converse with aught else beside thyself; / But, lest so stern a solitude should load / And break thy being, in mercy are vouchsafed / Some lower measures of perception, / Which seem to thee, as though through channels brought, / Through ear, or nerves, or palate, which are gone. / And thou art wrapp'd and swathed around in dreams, / Dreams that are true, yet enigmatical; / For the belongings of thy present state, / Save through such symbols, come not home to thee. / And thus thou tell'st of space, and time, and size, / Of fragrant, solid, bitter, musical, / Of fire, and of refreshment after fire; / As (let me use similitude of earth, / To aid thee in the knowledge thou dost ask)— / As ice which blisters may be said to burn. / Nor hast thou now extension, with its parts / Correlative,—long habit cozens thee,— / Nor power to move thyself, nor limbs to move. / Hast thou not heard of those, who after loss / Of hand or foot, still cried that they had pains / In hand or foot, as though they had it still? / So is it now with thee, who hast not lost / Thy hand or foot, but all which made up man. / So will it be, until the joyous day / Of resurrection, when thou wilt regain / All thou hast lost, new-made and glorified. / How, even now, the consummated Saints / See God in heaven, I may not explicate; / Meanwhile, let it suffice thee to possess / Such means of converse as are granted thee, / Though, till that Beatific Vision, thou art blind; / For e'en thy purgatory, which comes like fire, / Is fire without its light.
Soul: His will be done! / I am not worthy e'er to see again / The face of day; far less His countenance, / Who is the very sun. Natheless in life, / When I looked forward to my purgatory, / It ever was my solace to believe, / That, ere I plunged amid the avenging flame, / I had one sight of Him to strengthen me.
Angel: Nor rash nor vain is that presentiment;

Angel:
Yes, - for one moment thou shalt see thy Lord,
One moment; but thou knowest not, my child,
What thou dost ask; that sight of the Most Fair
Will gladden thee, but it will pierce thee too.

天使：
ええ、一瞬主の姿を見るでしょう。一瞬だけ[42]。
でもわが子よ、あなたは自分が何を問うているのか
わかっていません。裁きの主のお姿は、あなたを
喜ばせると同時に、あなたを鋭く貫き通すのです。

Soul:
Thou speakest darkly, Angel! and an awe
Falls on me, and a fear lest I be rash.

魂：
恐ろしいおっしゃりようです、天使様！
私は軽はずみだったかと思うと怖くなりました。

Angel:
There was a mortal, who is now above
In the mid-glory: he, when near to die,
Was given communion with the Crucified, -
Such that the Master's very wounds were stamped
Upon his flesh; and from the agony
Which thrilled through body and soul in that embrace,
Learn that the flame of the Everlasting Love
Doth burn ere it transform. . .

天使：
かつて地上に生かされたある男が、今は天上で栄光
のなかにあるのですが、彼に死が近づいた時、
十字架にかけられた主と霊の交わりを得て
主のものと同じ傷が彼のからだに刻印されました。
そのような交わりの間、
心も体も貫き通した苦悶の中から
永遠の愛の炎は、姿を変えるまで
燃えさかるものだとわかるのです。

Choir of Angelicals:
Praise to the Holiest in the height,
And in the depth be praise:

天上の合唱：
いと高きところでは、聖なる方をほめたたえよ、
深みにあってもほめたたえよ。

Angel:
. . . Hark to those sounds!
They come of tender beings angelical,
Least and most childlike of the sons of God.

天使：
……あの調べをお聴きなさい！
あの調べのもとは、天使のような優しい者たち、
神の息子たちの中でも最も無垢な者たちの声。

Choir of Angelicals:
Praise to the Holiest in the height,
And in the depth be praise;
In all His words most wonderful;
Most sure in all His ways!

天上の合唱：
いと高きところでは、聖なる方をほめたたえよ、
深みにあってもほめたたえよ。
すべて主のみことばは、何よりまして素晴らしく
すべて主のみわざは、何よりまして確かなもの！

To us His elder race He gave
To battle and to win,
Without the chastisement of pain,
Without the soil of sin.

私たちのために、神は先人を遣わし、
闘わせ、そして勝利させた。
罰によって懲らしめられることもなく、
罪にまみれることもないように。

---

[42]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Thus will it be: what time thou art arraign'd / Before the dread tribunal, and thy lot / Is cast for ever, should it be to sit / On His right hand among His pure elect, / Then sight, or that which to the soul is sight, / As by a lightning-flash, will come to thee, / And thou shalt see, amid the dark profound, / Whom thy soul loveth, and would fain approach,—

The younger son He willed to be
A marvel in His birth:
Spirit and flesh His parents were;
His home was heaven and earth.

神は幼い息子をこの世に送り、
その誕生で奇跡をおこされた。
霊と肉とをその両親となし、
天と地とをその家とされた。

The eternal blessed His child, and armed,
And sent Him hence afar,
To serve as champion in the field
Of elemental war.

その息子は永遠に祝福され、護られ、
その後、遠くへ遣わされた、
それは世の根源となる戦いの野で
無敵の戦士として働くため。

To be His Viceroy in the world
Of matter, and of sense;
Upon the frontier, towards the foe,
A resolute defence.

その方の名において
物質の世界と感覚の世界を統べ、
前線におもむき、敵に立ち向かい、
鉄壁の護りを固めるため。

Angel:
We now have passed the gate, and are within
The House of Judgement. . .

天使：
さあ、いよいよ門をくぐりました。
私たちは審判の館の中に入ったのです……[43]。

Soul:
The sound is like the rushing of the wind –
The summer wind – among the lofty pines.

魂：
猛烈な風が吹いているような音がします、
そびえる糸杉を吹き抜ける夏の風のようです[44]。

Choir of Angelicals:
Glory to Him, Who evermore
By truth and justice reigns;

天上の合唱：
主に栄光あれ、とこしえに
真実と正義によって世を統べる主に。

---

[43]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：and whereas on earth / Temples and palaces are form'd of parts / Costly and rare, but all material, / So in the world of spirits nought is found, / To mould withal, and form into a whole, / But what is immaterial; and thus / The smallest portions of this edifice, / Cornice, or frieze, or balustrade, or stair, / The very pavement is made up of life— / Of holy, blessed, and immortal beings, / Who hymn their Maker's praise continually.
Second Choir of Angelicals: Praise to the Holiest in the height, / And in the depth be praise: / In all His words most wonderful; / Most sure in all His ways! / Woe to thee, man! for he was found / A recreant in the fight; / And lost his heritage of heaven, / And fellowship with light. / Above him now the angry sky, / Around the tempest's din; / Who once had Angels for his friends, / Had but the brutes for kin. / O man! a savage kindred they; / To flee that monster brood / He scaled the seaside cave, and clomb / The giants of the wood. / With now a fear, and now a hope, / With aids which chance supplied, / From youth to eld, from sire to son, / He lived, and toil'd, and died. / He dreed his penance age by age; / And step by step began / Slowly to doff his savage garb,/ And be again a man. / And quicken'd by the Almighty's breath, / And chasten'd by His rod, / And taught by angel-visitings, / At length he sought his God; / And learn'd to call upon His Name, / And in His faith create / A household and a father-land, / A city and a state. / Glory to Him who from the mire, / In patient length of days, / Elaborated into life / A people to His praise!

[44]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Swelling and dying, echoing round about, / Now here, now distant, wild and beautiful; / While, scatter'd from the branches it has stirr'd, / Descend ecstatic odours.
Third Choir of Angelicals: Praise to the Holiest in the height, / And in the depth be praise: / In all His words most wonderful; / Most sure in all His ways! / The Angels, as beseemingly / To spirit-kind was given, / At once were tried and perfected, / And took their seats in heaven. / For them no twilight or eclipse; / No growth and no decay: / 'Twas hopeless, all-ingulfing night, / Or beatific day. / But to the younger race there rose / A hope upon its fall; / And slowly, surely, gracefully, / The morning dawn'd on all. / And ages, opening out, divide / The precious, and the base, / And from the hard and sullen mass / Mature the heirs of grace. / O man! albeit the quickening ray, / Lit from his second birth, / Makes him at length what once he was, / And heaven grows out of earth; / Yet still between that earth and heaven— / His journey and his goal— / A double agony awaits / His body and his soul. / A double debt he has to pay— / The forfeit of his sins: / The chill of death is past, and now / The penance-fire begins.

Who tears the soul from out its case,
And burns away its stains!

魂を牢獄から救い出し、
その穢れを焼き払ってくださる主に。

Angel:
They sing of thy approaching agony,
Which thou so eagerly didst question of.

天使：
あの者たちは、あなたが知りたがっている、
あなたのこれから苦しみについて歌っています[45]。

Soul:
My soul is in my hand: I have no fear, -
But hark! a grand mysterious harmony:
It floods me, like the deep and solemn sound
Of many waters.

魂：
私の心は落ち着いています。もう怖くはありません。
それより聴いてください！　あの壮大で神秘的な
響きが、私の心の中に流れ込んできます。まるで
幾多の水の流れの、深く荘厳な調べのように[46]。

Angel:
And now the threshold, as we traverse it,
Utters aloud its glad responsive chant.

天使：
さあ、もう入り口です。私たちが通りぬける時、
喜びの歌が高らかに歌われるでしょう。

Choir of Angelicals:
Praise to the Holiest in the height,
And in the depth be praise;
In all His words most wonderful;
Most sure in all His ways!

天上の合唱：
いと高きところでは、聖なる方をほめたたえよ、
深みにあってもほめたたえよ。
すべて主のみことばは、何よりまして素晴らしく
すべて主のみわざは、何よりまして確かなもの！

---

[45]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：It is the face of the Incarnate God / Shall smite thee with that keen and subtle pain; / And yet the memory which it leaves will be / A sovereign febrifuge to heal the wound; / And yet withal it will the wound provoke, / And aggravate and widen it the more.
Soul: Thou speakest mysteries; still methinks I know / To disengage the tangle of thy words: / Yet rather would I hear thy angel voice, / Than for myself be thy interpreter.
Angel: When then—if such thy lot—thou seest thy Judge, / The sight of Him will kindle in thy heart / All tender, gracious, reverential thoughts. / Thou wilt be sick with love, and yearn for Him, / And feel as though thou couldst but pity Him, / That one so sweet should e'er have placed Himself / At disadvantage such, as to be used / So vilely by a being so vile as thee. / There is a pleading in His pensive eyes / Will pierce thee to the quick, and trouble thee. / And thou wilt hate and loathe thyself; for, though / Now sinless, thou wilt feel that thou hast sinn'd, / As never thou didst feel; and wilt desire / To slink away, and hide thee from His sight: / And yet wilt have a longing aye to dwell / Within the beauty of His countenance. / And these two pains, so counter and so keen,— / The longing for Him, when thou seest Him not; / The shame of self at thought of seeing Him,— / Will be thy veriest, sharpest purgatory.

[46]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：Angel: We have gain'd the stairs / Which rise towards the Presence-chamber; there / A band of mighty Angels keep the way / On either side, and hymn the Incarnate God.
Angels of the Sacred Stair: Father, whose goodness none can know, but they / Who see Thee face to face, / By man hath come the infinite display / Of thy victorious grace; / But fallen man—the creature of a day— / Skills not that love to trace. / It needs, to tell the triumph Thou hast wrought, / An Angel's deathless fire, an Angel's reach of thought. / It needs that very Angel, who with awe, / Amid the garden shade, / The great Creator in His sickness saw, / Soothed by a creature's aid, / And agonized, as victim of the Law / Which He Himself had made; / For who can praise Him in His depth and height, / But he who saw Him reel amid that solitary fight?
Soul: Hark! for the lintels of the presence-gate / Are vibrating and echoing back the strain.
Fourth Choir of Angelicals: Praise to the Holiest in the height, / And in the depth be praise: / In all His words most wonderful; / Most sure in all His ways! / The foe blasphemed the Holy Lord, / As if He reckon'd ill, / In that He placed His puppet man / The frontier place to fill. / For, even in his best estate, / With amplest gifts endued, / A sorry sentinel was he, / A being of flesh and blood. / As though a thing, who for his help / Must needs possess a wife, / Could cope with those proud rebel hosts / Who had angelic life. / And when, by blandishment of Eve, / That earth-born Adam fell, / He shriek'd in triumph, and he cried, / "A sorry sentinel; / "The Maker by His word is bound, / Escape or cure is none; / He must abandon to his doom, / And slay His darling son."

O loving wisdom of our God!
When all was sin and shame,
A second Adam to the fight
And to the rescue came.

ああ、私たちの神の、愛すべき叡智よ！
人みな罪深く恥ずべき時に、
闘い、そして救い出すために
第二のアダムがやってきた。

O Wisest love! that flesh and blood
Which did in Adam fail,
Should strive afresh against the foe,
Should strive and should prevail.

ああ、なんと賢き愛！
アダムにおいて負けた肉と血とが
再び敵と争って
闘い打ち勝つとは。

And that a higher gift than grace
Should flesh and blood refine,
God's Presence and His very Self,
And Essence all divine.

そして恩寵にまさる賜物として、
肉と血とが、
神の顕在と、かの方の本質と、
すべて聖なるものの実在とを精錬するとは。

O generous love! that He who smote
In man for man the foe,
The double agony in man.
For man should undergo;

ああ、なんと寛大なる愛！
あの方は、人の心の中にある敵、
人の心にひそむ二重の苦悩と闘って、
人のために贖ってくださった。

And in the garden secretly,
And on the cross on high,
Should teach His brethren and inspire
To suffer and to die.

ひそやかに園の中で祈るときも、
十字架の上に高くかけられたときも、
苦しみと死とはいかなるものか、
主は、兄弟たちに教えてくださった。

Praise to the Holiest in the height,
And in the depth be praise;
Glory to Him, Who evermore
By truth and justice reigns;
In all His words most wonderful;
Most sure in all His ways!

いと高きところでは、聖なる方をほめたたえよ、
深みにあってもほめたたえよ。
主に栄光あれ、とこしえに
真実と正義によって世を統べる主に。
すべて主のみことばは、何よりまして素晴らしく
すべて主のみわざは、何よりまして確かなもの！

Angel:
Thy judgement now is near, for we are come
Into the veiled presence of our God.

天使：
あなたの審判が近づきました。包み隠されて
在る、私たちの神様に、いよいよ近づいてゆきます。

Soul:
I hear the voices that I left on earth.

魂：
地上に残してきた人々の声が聞こえます。

Angel:
It is the voice of friends around thy bed,
Who say the 'Subvenite' with the priest.
Hither the echoes come; before the Throne
Stands the great Angel of the Agony,

天使：
あなたの床のまわりの友人たちが、司祭と共に
「来たりて助けたまえ」と唱えている声です。
ここまでその響きが聞こえてきます。
玉座の前には、偉大な、苦悩の天使がいます。

The same who strengthened Him, what time He knelt
Lone in the garden shade; bedewed with blood.
That Angel best can plead with Him for all
Tormented souls, the dying and the dead.

主が園で独り密やかにひざまづき、
血潮に濡れていた時、力づけたあの天使です。
あの天使なら、主にお願いしてくれるはず、
死の床にあって苦しんでいるすべての魂のために。

Angel of the Agony:
Jesu! by that shuddering dread which fell on Thee;
Jesu! by that cold dismay which sickened Thee;
Jesu! by that pang of heart which thrilled in Thee;
Jesu! by that mount of sins which crippled Thee;
Jesu! by that sense of guilt which stifled Thee;
Jesu! by that innocence which girdled Thee;
Jesu! by that sanctity which reigned in Thee;
Jesu! by that Godhead which was one with Thee;
Jesu! spare these souls which are so dear to Thee;
Souls, who in prison, calm and patient, wait for Thee;
Hasten, Lord, their hour, and bid them come to Thee,
To that glorious Home, where they shall ever gaze on Thee.

苦悩の天使：
イエス様！　あなたを襲った身の毛のよだつ恐怖、
あなたを苦しめた寒々しい失望、
あなたを身震いさせた心の苦しみ、
あなたの力を萎えさせたあまたの過ち、
あなたの息を詰まらせた罪の意識、
あなたを取り囲んだ無垢な魂、
あなたの中に君臨した聖なるもの、
あなたと一体であるその神性、そのすべてによって、
あなたを熱く慕うこの魂たちをお救いください。
牢の中で、静かに辛抱強くあなたを待つ魂たちを。
主よ、早くあなたのもとへ来るよう命じてください、
あなたを仰ぎ見る栄光の家へ来るように。

Soul:
I go before my Judge. . .

魂：
私は裁きを下すお方の御前にまいります……

Voices on Earth:
Be merciful, be gracious; spare him, Lord
Be merciful, be gracious; Lord, deliver him.

地上の声：
慈しみ深き主よ、彼を助けてください。
恵にあふれる主よ、彼を救ってください。

Angel:
. . . Praise to His Name!
O happy, suffering soul! for it is safe,
Consumed, yet quickened, by the glance of God.
Allelua! Praise to His Name!

天使：
……主の御名をほめたたえよ！[47]
ああ、幸いなるかな、悩める魂よ！
神の一瞥によって心奪われ奮い立ち、救われた。
アレルヤ！　主の御名をほめたたえよ！

Soul:
Take me away, and in the lowest deep
There let me be,
And there in hope the lone night-watches keep,
Told out for me.
There, motionless and happy in my pain
Lone, not forlorn,—
There will I sing my sad perpetual strain,

魂：
私を連れて行ってください、そして
　どこよりも深い所に我が身を置かせてください。
孤独な夜警が暁を待つその場所で、
　希望のうちに待たせてください。
そこでは、痛みの内にも穏やかな喜びがあり、
　独りであっても見捨てられることがないのです。
私はそこで、朝が来るまでずっと

[47]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：The eager spirit has darted from my hold, / And, with the intemperate energy of love, / Flies to the dear feet of Emmanuel; / But, ere it reach them, the keen sanctity, / Which with its effluence, like a glory, clothes / And circles round the Crucified, has seized, / And scorch'd, and shrivell'd it; and now it lies / Passive and still before the awful Throne.

Until the morn.
There will I sing, and soothe my stricken breast,
Which ne'er can cease
To throb, and pine, and languish, till possest
Of its Sole Peace.
There will I sing my absent Lord and Love:—
Take me away,
That sooner I may rise, and go above,
And see Him in the truth of everlasting day.
Take me away, and in the lowest deep
There let me be.

悲しい胸のうちを歌い続けましょう。
私はそこで歌いつづけながら、癒えることのない
うちひしがれた心を慰めましょう。
焦がれることも悩むこともなくなるのは、
唯一無二の平穏に満たされる時。
私はそこで、姿なき主と、その愛を謳うのです——
私を連れて行ってください。
一刻も早く私が立ち上がり、高きところに昇り、
永遠の日の真実の中で、主にまみえられますよう。
私を連れて行ってください、そして
どこより深い所に我が身を置かせてください。[48]

Souls in Purgatory:
Lord, Thou hast been our refuge: in every generation;
Before the hills were born, and the world was,
from age to age Thou art God.

煉獄の魂たち：
主よ、あなたはいつの世も、私たちの避けどころ。
山々ができる前から、この世が造られる前から、
代々にわたり、あなたこそ神[49]。

Angel:
Softly and gently, dearly-ransomed soul,
In my most loving arms I now enfold thee,
And o'er the penal waters, as they roll,
I poise thee, and I lower thee, and hold thee.
And carefully I dip thee in the lake,
And thou, without a sob or a resistance,
Dost through the flood thy rapid passage take,
Sinking deep, deeper, into the dim distance.

天使：
静かに穏やかに、いま解き放たれた魂を、
心からの愛をこめて、腕に抱きましょう。
急な流れを渡る時にも、渦巻く水のなかで、
高く低く、つねにあなたを支えましょう。
そしてゆっくり、あなたを湖水に浸します。
あなたは泣きもせず逆らいもせず、
溢れる水の中をすみやかに進み、
はるか彼方の薄暗がりの奥へと沈んでゆきます。

Angels to whom the willing task is given,
Shall tend, and nurse, and lull thee, as thou liest;
And Masses on the earth, and prayers in heaven,
Shall aid thee at the Throne of the Most Highest.

喜ばしい仕事を与えられた天使たちが、これから
あなたを助け、介抱し、なだめるでしょう。
地上のミサと、天上の祈りとが、
いと高き玉座の前のあなたを助けるでしょう。

Farewell, but not for ever! brother dear,
Be brave and patient on thy bed of sorrow;

これでお別れです、でも永久にではありません。
悲しみの床にあっても勇気をもって耐えなさい。

---

[48]このあと Newman の原詩の次の部分を省略して作曲：*Angel:* Now let the golden prison ope its gates, / Making sweet music, as each fold revolves / Upon its ready hinge. And ye, great powers, / Angels of Purgatory, receive from me / My charge, a precious soul, until the day, / When, from all bond and forfeiture released, / I shall reclaim it for the courts of light.

[49] Newman の原詩では、煉獄の魂たちの言葉として、このほかに次のものがあるが、エルガーは作曲していない：Lord, Thou hast been our refuge: in every generation; / Before the hills were born, and the world was: from age to age Thou art God. / A thousand years before Thine eyes are but as yesterday: and as a watch of the night which is come and gone. / The grass springs up in the morning: at evening tide it shrivels up and dies. / So we fail in Thine anger: and in Thy wrath are we troubled. / Thou hast set our sins in Thy sight: and our round of days in the light of Thy countenance. / In Thy morning we shall be filled with Thy mercy: we shall rejoice and be in pleasure all our days. / We shall be glad according to the days of our humiliation: and the years in which we have seen evil. / Look, O Lord, upon Thy servants and on Thy work: and direct their children. / And let the beauty of the Lord our God be upon us: and the work of our hands, establish Thou it. / Glory be to the Father, and to the Son: and to the Holy Ghost. / As it was in the beginning, is now, and ever shall be: world without end. Amen.

Swiftly shall pass thy night of trial here,
And I will come and wake thee on the morrow.
Farewell! Farewell!

ここでの試練の夜はすみやかに過ぎ去り、
明日にはわたしがあなたを迎えに来ます。
さようなら、さようなら！

Souls:
Lord, Thou hast been our refuge: in every generation.
Come back, O Lord! How long: and be entreated for
Thy servants.
Bring us not, very low: for thou hast said,
Come back again, ye sons of Adam. Amen

魂たち：
主よ、あなたはいつの世も、私たちの避けどころ。
戻ってきてください、ああ、主よ！　いつになったら
あなたの僕（しもべ）とされるのでしょう。
見捨てないで下さい：あなたはおっしゃいました、
アダムの息子たちよ、戻って来るようにと。アーメン

Choir of Angelicals:
Praise to the Holiest in the height,
Amen.

天上の合唱：
いと高きところでは、聖なる方をほめたたえよ、
アーメン。

エルガー：オラトリオ《使徒たち》作品 49
Edward Elgar, *The Apostles*, opus 49
歌詞対訳：秋岡　陽[50]

PROLOGUE

CHORUS AND ORCHESTRA:
The Spirit of the Lord is upon me,
because He hath anointed me to preach
the Gospel to the poor:
He hath sent me to heal the broken-hearted,
to preach deliverance to the captives
and recovering of sight to the blind,——
to preach the acceptable year of the Lord,
To give unto them that mourn a garland for ashes,
the oil of joy for mourning,
the garment of praise for the spirit of heaviness;
That they might be called trees of righteousness,
the planting of the Lord, that He might be glorified.
For as the earth bringeth forth her bud,
and as the garden causeth the things that
are sown in it to spring forth;
So the Lord God will cause righteousness and
praise to spring forth before all the nations.
The Spirit of the Lord is upon me,
because He hath anointed me to preach the Gospel.

プロローグ

合唱とオーケストラ：
主の霊が私の上におられる。
それは、貧しい人に福音を伝えるために、
主が私に油を注がれたからである。
主が私を遣わされたのは、打ち砕かれた心を癒し、
捕らわれ人を解放し、
目の見えない人に視力の回復を告げ、
主の恵みの年を告げるためである。
嘆いている人々に、灰に代えて冠をかぶせ、
嘆きに代えて喜びの香油をあたえ、
重い心に代えて賛美の衣をまとわせるためである。
彼らは正義の木と呼ばれるだろう。
その木は、主が栄光を現すために植えたもの。
大地が草の芽を萌えいでさせ、
園（その）が、そこに蒔かれた種を
芽生えさせるように、
主なる神は、すべての民の前で
正義と賛美を芽生えさせてくださる。
主の霊が私の上におられる。それは、
福音を伝えるために、主が私に油を注いだから。

PART 1

I. THE CALLING OF THE APOSTLES

RECITATIVE (TENOR):
And it came to pass in those days that
Jesus went out into a mountain to pray,
and continued all night in prayer to God.
(ORCHESTRA)
The Angel Gabriel:
The voice of Thy watchman !
The Lord returneth to Zion,——

第 1 部

I. 使徒たちの召命

レチタティーヴォ（テノール）：
さて、その頃のこと、
イエスは祈るために山へ行かれ、
一晩じゅう、神に祈り続けられた。
（オーケストラ）
天使ガブリエル：
エルサレムの都の見張りが、声をあげる！
主がシオンに帰って来られる——

[50] この歌詞対訳は、2004 年 3 月 6 日に行われた東京交響楽団・大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第 73 回演奏会のために用意したものをもとに、今回あらたに改訂を加えたものである。

break forth into joy,
sing together ye waste places of Jerusalem:
for the Lord hath comforted His people.
(ORCHESTRA)
The Angel:
"Behold My servant, Whom I have chosen;
My beloved, in Whom My soul is well pleased:
He shall not strive, nor cry aloud:
neither shall anyone hear His voice in the streets:
a bruised reed shall He not break,
the dimly burning wick shall He not quench,
and in His name shall the Gentiles hope."
The voice of Thy watchman !

THE DAWN
SHOFAR (distant)

The Watchers (on the Temple roof):
It shines !
(Clang of the Gates——SHOFAR)
The face of all the East is now ablaze with light,
the Dawn reacheth even unto Hebron !
The Singers (within the Temple):
It is a good thing to give thanks unto the Lord,
and to sing praises unto Thy name, O Most High:
To shew forth Thy lovingkindness in the morning,
and Thy faithfulness every night,
Upon the psaltery;
upon the harp with a solemn sound.
For Thou, Lord, hast made me glad through Thy work:
I will triumph in the works of Thy hands.
For, lo, Thine enemies, O Lord, shall perish:
all the workers of iniquity shall be scattered.
The righteous shall flourish like the palm tree:
he shall grow like a cedar in Lebanon.
(SHOFAR AND ORCHESTRA)

RECITATIVE (TENOR):
And when it was day, He called unto Him
His disciples: and of them He chose twelve,
whom also He named Apostles,
that they should be with Him, and that
He might send them forth to preach.
CHORUS:

歓声をあげ、
共に歌え、エルサレムの廃墟よ。
主はその民を慰めてくださる。
（オーケストラ）
天使：
「見よ、私の選んだ僕（しもべ）を。
私の心に適（かな）った、愛する者を。
彼は争わず、叫ばず、
その声を聞く者は大通りにはいない。
彼は傷ついた葦を折らず、
くすぶる灯心を消すことはない。
異邦人は彼の名に望みをかける」。
エルサレムの都の見張りが、声をあげる！

夜明け
ショファルの角笛の音（遠くから）

見張りたち（神殿の城壁の上で）：
来光だ！
（城門で物音——ショファルの角笛）
東の壁は、今、光に満ちて輝き
ヘブロンの谷にも夜明けが訪れた。
歌い手たち（神殿の内部で）：
いかに楽しいことでしょう、主に感謝をささげ、
御名（みな）をほめ歌うことは。いと高き神よ。
朝ごとに、あなたの慈しみを述べ伝え、
夜ごとに、あなたのまことを述べ伝えます。
琴の調べに合わせ、
竪琴に合わせ、おごそかに歌います。
主よ、あなたは御業（みわざ）で私を喜ばせます。
私は御手（みて）の業を喜び歌います。
主よ、あなたに敵対する者は、必ず滅び、
悪を行う者は皆、散らされて行きます。
しかし正しい者は、ナツメヤシのように生い茂り、
レバノンの杉のように立派に育つのです。
（ショファルの角笛と、オーケストラ）

レチタティーヴォ（テノール）：
朝になると、イエスは弟子たちを呼び集め、
その中から 12 人を選んで
「使徒」と名づけられた。
彼らを自分のそばに置くため、また
派遣して宣教させるためである。
合唱：

The Lord hath chosen them
to stand before Him, to serve Him.
He hath chosen the weak to confound the
mighty;
He will direct their work in truth.
Behold ! God exalteth by His power,
who teacheth like Him ?
The meek will He guide in judgment,
and the meek will He teach His way.
He will direct their work in truth,
for out of Zion shall go forth the law.
John, Peter, and Judas:
We are the servants of the Lord.
Peter:
Thou wilt shew us the path of life;
in Thy light shall we see light.
Let Thy work appear unto Thy servants.
John:
O blessed are they which love Thee,
for they shall rejoice in Thy peace:
and shall be filled with the law.
Judas:
We shall eat of the riches of the Gentiles,
and in their glory shall we boast ourselves.
John, Peter, and Judas:
For out of Zion shall go forth the law,
and the word of the Lord from Jerusalem.
CHORUS:
The Lord hath chosen them,
they shall be named the Priests of the Lord,
men shall call them the Ministers of our God.
John:
O blessed are they which love Thee
Peter:
In Thy light shall we see light.
Judas:
God exalteth by His power

CHORUS:
He will direct their work;
they are the servants of the Lord.
The Angel and CHORUS:
Thy watchmen shall lift up the voice;
with the voice together shall they sing;

主は彼らを選ばれた——
主の前に立ち、主に仕える者として。
主は力ある者に恥をかかせるため、
あえて無力な者を選ばれた。
主はまことをもって彼らの労苦に報われる。
見よ！　神は力に秀でている。
いったい神ほどの教師があるだろうか？
貧しい人を、主は裁きによって導き
貧しい人に、主はその道を教え示される。
主はまことをもって彼らの労苦に報われる。
かくして、主の教えはシオンから出る。
ヨハネ、ペトロ、ユダ：
われらは、主の僕（しもべ）。
ペトロ：
あなたは私たちに命の道を教えてくださる。
あなたの光に、私たちは光を見る。
あなたの僕らに御業（みわざ）を仰がせてください。
ヨハネ：
あなたを愛する人々は、幸いである。
その人たちはあなたの平安のうちに喜び、
教えによって満たされるだろう。
ユダ：
私たちは国々の富を享受し、
彼らの栄光を自分たちのものにするだろう。
ヨハネ、ペトロ、ユダ：
かくして、主の教えはシオンから出、
主の御言葉（みことば）はエルサレムから出る。
合唱：
主は彼らを選ばれた——
彼らは主の祭司とよばれ、
私たちの神に仕える者とよばれるだろう。
ヨハネ：
あなたを愛する人々は、幸いである。
ペトロ：
あなたの光に、私たちは光を見る。
ユダ：
神はその力において秀でている。

合唱：
主はまことをもって彼らの労苦に報われる。
彼らこそ、主の僕。
天使と合唱：
あなたの見張りは、声をあげ、
皆共に、喜び歌う。

for they shall see eye to eye,
when the Lord shall bring again Zion.
John, Peter, and Judas:
Come ye, and let us walk in the light of the Lord.
Jesus:
Behold, I send you forth.
He that receiveth you, receiveth Me;
and he that receiveth Me,
receiveth Him that sent Me.
John, Peter, and Judas:
We are the servants of the Lord.
The Angel:
Look down from heaven, O God,
and behold, and visit this vine.
CHORUS:
Amen.

彼らは目の当たりに見る
主がシオンに帰られるのを。
ヨハネ、ペトロ、ユダ：
来たれ、そして主の光の中を歩もう。
イエス：
見よ、私はあなたがたを遣わす。
あなたがたを受け入れる人は、私を受け入れ、
私を受け入れる人は、
私を遣わされた方を受け入れるのである。
ヨハネ、ペトロ、ユダ：
われらは、主の僕。
天使：
天から目を注いで御覧ください、神よ、
そして、このぶどうの木を顧みてください。
合唱：
アーメン

II. BY THE WAYSIDE
Jesus:
BLESSED are the poor in spirit:
for theirs is the kingdom of heaven.
Mary (The Blessed Virgin), John, and Peter:
(He setteth the poor on high from affliction:
Judas:
He poureth contempt upon princes.)
Jesus:
BLESSED are they that mourn:
for they shall be comforted.
John:
(The Lord shall give them rest from their sorrow,
Peter:
and will turn their mourning into joy,
Mary and John:
and will comfort them:——
Women:
Weeping may endure for a night,
Men:
but joy cometh in the morning.)
Jesus:
BLESSED are the meek:
for they shall inherit the earth.
The People:
(The meek also shall increase their joy——

II. 路傍で（山上の説教）
イエス：
心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。
マリア（聖母）、ヨハネ、ペトロ：
（主は、乏しい人を、その貧苦から高く上げられ、
ユダ：
主は、自由な者に嘲りを浴びせかける）。
イエス：
悲しむ人々は、幸いである、
その人たちは慰められる。
ヨハネ：
（主は悲しむ人々に安らぎの時を与え、
ペトロ：
彼らの悲しみを喜びにかえ、
マリアとヨハネ：
そして彼らを慰めてくださる——
女たち：
泣きながら夜を過ごす人にも、
男たち：
喜びと共に朝を迎えさせてくださる）。
イエス：
柔和な人々は、幸いである、
その人たちは地を受け継ぐ。
人々：
（柔和な人々は、喜び祝う——

Mary, John, and Peter:
in the Lord;
The People:
and the poor among men shall rejoice——
Mary, John, and Peter:
in the Holy One of Israel.)
Jesus:
BLESSED are they which do hunger and
thirst after righteousness: for they shall be filled.
Mary, John, Peter, and Judas:
(Mercy and truth are met together:
righteousness and peace have kissed each other.
The People:
Sow to yourselves in righteousness,——)
Jesus:
BLESSED are the merciful:
for they shall obtain mercy.
The People:
(Reap in mercy,
Mary, John, and Peter:
He that hath mercy on the poor, happy is he.
Judas:
The poor is hated even of his own neighbour:
the rich hath many friends.
The People:
Draw out thy soul to the hungry,
John:
and satisfy the afflicted soul;
Peter:
then shall thy light rise in obscurity.)
Jesus:
BLESSES are the pure in heart:
for they shall see God.
Mary:
(Thou art of purer eyes than to behold evil.
John:
Blessed are the undefiled.
Peter:
Who can say, I have made my heart clean ?
Judas:
The stars are not pure in his sight,
The People:
how much less man.)
Jesus:

マリア、ヨハネ、ペトロ：
——主にあって喜び祝う。
人々：
貧しい人々は、喜び躍る——
マリア、ヨハネ、ペトロ：
イスラエルの聖なる方のゆえに喜び躍る)。
イエス：
義に飢え渇く人々は、幸いである、
その人たちは満たされる。
マリア、ヨハネ、ペトロ、ユダ：
慈しみとまことは出会い、
正義と平和は口づけする。
人々：
恵の業〔わざ〕をもたらす種を蒔け——)。
イエス：
憐れみ深い人々は、幸いである、
その人たちは憐れみを受ける。
人々：
(愛の実りを刈り入れよ、
マリア、ヨハネ、ペトロ：
貧しい人を憐れむ人は、幸いである。
ユダ：
貧乏な者は友にさえ嫌われるが、
金持ちを愛する者は多い。
人々：
飢えている人に心を配り、
ヨハネ：
苦しめられている人の願いを満たすなら、
ペトロ：
あなたの光は、闇の中に輝き出るでしょう)。
イエス：
心の清い人々は、幸いである、
その人たちは神を見る。
マリア：
(あなたの目は、悪を見るには、あまりに清い。
ヨハネ：
幸いなるかな、まったき道を歩む者。
ペトロ：
私の心を潔白にした、と誰が言えるだろう？
ユダ：
星でさえも、神の目には清らかではないのに、
人々：
まして人間など……)。
イエス：

BLESSED are the peacemakers:
for they shall be called the children of God.
The People:
(The work of righteousness shall be peace.)
Jesus:
BLESSED are they which are persecuted for
righteousness' sake:
for theirs is the kingdom of heaven.
Rejoice, and be exceeding glad;
for great is your reward in heaven:
for so persecuted they the prophets which
were before you.
SOLI AND CHORUS:
BLESSED are they which have been sorrowful
for all Thy scourges,
for they shall rejoice for Thee,
when they have seen all Thy glory,
and shall be glad for ever.

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。
人々：
（正義が造り出すものは、平和である）。
イエス：
義のために迫害される人々は、
幸いである。
天国はその人たちのものである。
喜びなさい、大いに喜びなさい。
天には大きな報いがある。
あなたがたより前の預言者たちも、
同じように迫害されたのである。
独唱と合唱：
あなたのために苦しみ、嘆く人々は、
幸いである。
その人たちは、あなたのゆえに喜ぶ。
彼らがあなたの栄光を見たそのとき、
彼らは永遠の喜びを手にすることになる。

III. BY THE SEA OF GALILEE

RECITATIVE (TENOR):
And straightway Jesus constrained His disciples to get
into a ship, and to go before Him unto the other side:
and He went up into a mountain to pray:
and when the evening was come, He was there alone.
And His disciples went over the sea toward
Capernaum.

IN THE TOWER OF MAGDALA
Mary Magdalene:
O Lord Almighty, God of Israel, the soul in anguish,
the troubled spirit, crieth unto Thee.
Hear and have mercy; for Thou art merciful:
have pity upon me, because I have sinned before Thee.
Hear the voice of the forlorn,
and deliver me out of my fear.
Help me, desolate woman,
which have no helper but Thee:
Woe is me ! for I am as when they have
gathered the summer fruits——
as the grape-gleanings of the vintage.
Have pity upon me, because I have sinned before Thee.

III. **ガリラヤ湖のほとりで**

レチタティーヴォ（テノール）：
それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて
舟に乗せ、向こう岸に行かせた。
ご自分は祈るために山にお登りになり、
夕方になっても、ただひとりそこにおられた。
弟子たちは舟に乗り、湖の向こう岸の
カファルナウムに行こうとしていた。

マグダラの塔で
マグダラのマリア：
ああ、万能の主、イスラエルの神よ。苦しみ悩む魂、
乱れた心は、あなたにすがって涙します。
耳を傾け、憐れんでください。憐れみ深い主よ。
哀れな私は、あなたの前に罪を犯しました。
寄るべなき者の声をお聞きください。
そして私を怖れから解き放ってください。
私を助けてください。この惨めな女を
助けてくださるのは、あなただけ。
悲しいかな！
私は夏の果物を集める者のようになってしまった。
ぶどうの残りを摘む者のようになってしまった。
哀れな私は、あなたの前に罪を犯しました。

My tears run down like a river day and night.
Whatsoever mine eyes desired I kept not
from them, I withheld not my heart from any joy.
CHORUS *(Fantasy):*
Let us fill ourselves with costly wine and ointments,
and let no flower of the spring pass by us.
Let us crown ourselves with rosebuds before
they be withered.
Mary Magdalene:
"Ye that kindle a fire,
walk in the flame of your fire,
and among the brands that ye have kindled."
"This shall ye have of Mine hand;
ye shall lie down in sorrow."
The mirth of tabrets ceaseth;
the noise of them that rejoice endeth,——
our dance is turned into mourning.
"This shall ye have of Mine hand;
ye shall lie down in sorrow."
(There arose a great tempest in the sea).
Mary Magdalene:
Is Thy wrath against the sea？
The voice of Thy thunder is in the heavens！
Deep calleth unto deep at the noise of Thy
cataracts.
I see a ship in the midst of the sea,
distressed with waves:
and One cometh unto it, walking on the sea!
and they that are in the ship,
toiling in rowing, are troubled
and cry out for fear.
The Apostles (in the ship):
It is a spirit!
Jesus:
Be of good cheer; It is I, be not afraid.
Peter:
Lord, if it be Thou, bid me come unto Thee
upon the waters.
Jesus:
Come!
The Apostles:
He walketh on the waters,
Judas and Apostles:
Fearfulness and trembling are come upon him

私の涙は河のように流れます。昼も、夜も。
私は、自分の目に望ましく映るものはすべて拒まず、
どんな快楽をもあまさず試みてしまったのです。
合唱：
私たちを、高価なぶどう酒と香油で満たし、
春の花を私たちの前から去らせないでください。
バラのつぼみが萎んでしまう前に、どうか
私たちにバラの花冠をかぶせてください。
マグダラのマリア：
「松明（たいまつ）を掲げる者たちよ、
自分の火の光を頼って歩け、
自分で燃やす松明によって」。
「わたしの手がこのことをお前たちに定めた。
お前たちは苦悩のうちに横たわるであろう」。
太鼓の音は絶え、
陽気な人々の騒ぎは終わり、
躍っていた私たちは、悲嘆にくれる。
「わたしの手がこのことをお前たちに定めた。
お前たちは苦悩のうちに横たわるであろう」。
（湖で激しい嵐が起こる）
マグダラのマリア：
あなたの怒りが湖へと向けられたのですか？
あなたの声が、雷となって天に轟（とどろ）く！
あなたの降らせる豪雨の轟きにこたえて、
深淵は深淵に呼ばわる。
湖の真ん中に舟が見える。
その舟が逆風のために悩まされていると、
ひとりの方が湖の上を歩いて行くではないか！
舟の中で漕ぎ悩んでいた者たちは、
その方が湖上を歩いているのを見て驚き、
恐怖のあまり叫び声をあげた。
使徒たち：
幽霊だ！
イエス：
安心しなさい。私だ。恐れることはない。
ペトロ：
主よ、あなたでしたら、私に命令して、
水の上を歩いてそちらに行かせてください。
イエス：
来なさい！
使徒たち：
すると彼もまた水の上を歩きはじめた。
ユダと他の使徒たち：
しかし、強い風に気づいて怖くなったペトロは、

and an horrible dread hath overwhelmed him.

Peter:

Lord, save me; I perish !

Mary Magdalene:

He stretcheth forth His hand.

Jesus:

O Thou of little faith; wherefore didst thou doubt ?

Mary Magdalene:

The wind ceaseth, and they worship Him.

The Apostles:

Or a truth Thou art the Son of God.

Peter, John, and Judas:

The Lord hath his way in the whirlwind and
in the storm.

Mary Magdalene:

Who stilleth the raging of the sea,——
Who maketh the storm a calm ?
Thy providence, O Father, governeth it:
for Thou hast made a way in the sea,
and a safe path in the waves:
shewing that Thou canst save from all danger.
Thy face, Lord, will I seek,
Thou hast not forsaken them that seek Thee.
My soul followeth hard after Thee:
Thy right hand upholdeth me.

IN CAESAREA PHILIPPI

RECITATIVE (TENOR):

When Jesus came into the parts of Caesarea Philippi,
He asked His disciples, saying:

Jesus:

Whom do men say that I, the Son of man, am?

The Apostles:

Some say John the Baptist;
some Elias; and others, Jeremias,
or one of the prophets.

Jesus:

But whom say ye that I am?

Peter:

Thou art the Christ, the Son of the living God.

Jesus:

Blessed art thou, Simon Bar-Jona: for flesh
and blood hath not revealed it unto thee.
but My Father Which is in heaven.

やがて沈み始めた。

ペトロ：

主よ、助けてください、私は死にそうです！

マグダラのマリア：

すると主は、すぐに手を伸ばして捕まえた。

イエス：

信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか？

マグダラのマリア：

すると風は静まり、人々はイエスを拝んだ。

使徒たち：

本当に、あなたは神の子です。

ペトロ、ヨハネ、ユダ：

主は、つむじ風のなかでも、嵐のなかでも、
その道を示される。

マグダラのマリア：

波猛る湖を鎮めるその方は誰か？
嵐を静めるその方は誰か？
父なる神よ、あなたの摂理が統べ治めるのです。
あなたは、湖にあって、道を示される方。
荒波のなかにあって、安き道を整えられる方。
すべての危険から救ってくださる方。
主よ、私はあなたの御顔（みかお）を尋ね求めます。
あなたを尋ね求める人は見捨てられることがない。
私の魂は、あなたに付き従い、
あなたは、右の御手で私を支えてくださいます。

フィリポ・カイサリア地方で

レチタティーヴォ（テノール）：

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、
弟子たち、こうお尋ねになった：

イエス：

人々は、人の子のことを何者だと言っているか？

使徒たち：

「洗礼者ヨハネだ」と言う人も、「エリアだ」と
言う人もいます。ほかに、「エレミヤだ」とか、
「預言者の一人だ」と言う人もいます。

イエス：

それでは、あなたがたは私を何者だと言うのか？

ペトロ：

あなたはメシア、生ける神の子です。

イエス：

シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。
あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、
私の天の父なのだ。

Thou art Peter,——
and upon this rock I will build My church;
and the gates of hell shall not prevail
against it.
SOLI AND CHORUS:
Proclaim unto them that dwell on the earth,
and unto every nation, and kindred, and tongue,
the everlasting Gospel.
Jesus:
And I will give unto thee the keys of the
kingdom of heaven: and whatsoever thou
shalt bind on earth shall be bound in heaven:
and whatsoever thou shalt loose
on earth shall be loosed in heaven.

IN CAPERNAUM
Mary Magdalene:
Thy face, Lord, will I seek;
my soul followeth hard after Thee;
help me, desolate woman.
Mary:
Hearken, O daughter:——
When thou art in tribulation,
if thou turn to the Lord thy God,
and shall be obedient unto His voice,
He will not forsake thee,
Hearken, O daughter;——
Come thou, for there is peace to thee.
RECITATIVE (TENOR):
She stood at His feet weeping, and began to
wash His feet with tears, and did wipe
them with the hairs of her head. and
kissed His feet, and anointed them with
the ointment.
CHORUS *(Women):*
This man, if he were a prophet,
would have known who and what manner
of woman this is that toucheth him:
for she is a sinner.
Mary Magdalene:
Hide not Thy face far from me:
put not Thy servant away in anger.
Jesus:
Thy sins are forgiven;

あなたはペトロ。
私はこの岩の上に私の教会を建てる。
陰府（よみ）の力も
これに対抗できない。
独唱と合唱：
地上に住むすべての人々に告げ知らせよ。
あらゆる国民、種族、言葉の違う民に、
永遠の福音を告げ知らせよ。
イエス：
私はあなたに、天の国の鍵を授ける。
あなたが地上でつなぐことは、
天上でもつながれる。
あなたが地上で解くことは、
天上でも解かれる。

カファルナウムで
マグダラのマリア：
主よ、私はあなたの御顔（みかお）を尋ね求めます。
私の魂は、あなたに付き従います。
私を助けてください。この見捨てられた女を。
マリア（イエスの母）：
娘よ、聞きなさい：
苦難の時にも、
主なる神から顔を背けず、
主の御声に従うならば、
主があなたを見捨てることはありません。
娘よ、聞きなさい：
さあ行きなさい、あなたの平安があるその場所へ。
レチタティーヴォ（テノール）：
彼女はイエスの足もとに近寄り、
泣きながら主の足を涙でぬらし始め、
自分の髪の毛でぬぐい、
イエスの足に接吻して、
香油を塗った。
合唱（女たち）：
この人がもしも預言者ならば、
自分に触れている女が誰で、
どんな人か分かるはずだ。
罪深い女なのに。
マグダラのマリア：
主よ、御顔を隠すことなく、怒ることなく、
あなたの僕（しもべ）を退けないでください。
イエス：
あなたの罪は赦（ゆる）された。

thy faith hath saved thee:——
Go in peace.

SOLI AND CHORUS:

Turn you to the stronghold, ye prisoners of hope.
To the Lord our God belong mercies and forgivenesses, though we have rebelled against Him;
Turn you to the stronghold, ye prisoners of hope.
The fear of the Lord is a crown of wisdom, making peace and perfect health to flourish;
both which are the gifts of God:
and it enlargeth their rejoicing that love Him.
Turn you to the stronghold, ye prisoners of hope.
Thou art a God of the afflicted,
Thou art an helper of the oppressed,
Thou art an upholder or the weak,
Thou art a protector of the forlorn,
A Saviour of them that are without hope.
Turn you to the stronghold, ye prisoners of hope.
Blessed is he who is not fallen from his hope in the Lord.
For He will forgive their iniquity, and He will remember their sin no more.

あなたの信仰があなたを救った。
安心して行きなさい。

独唱と合唱：

希望を抱く捕らわれ人よ、砦に帰れ。
憐れみと赦しは、
主である神のもの——
たとえ、私たちが神に背こうとも。
希望を抱く捕らわれ人よ、砦に帰れ。
主を畏れることは、知恵の冠。
それは平和を生み出し、
すべての傷を癒す。
すべては神の賜物。
それは主を愛する人々の喜びを増す。
希望を抱く捕らわれ人よ、砦に帰れ。
あなたは、悩み苦しむ人々の神。
あなたは、虐げられた人々の助け手。
あなたは、弱い人々の援護者。
あなたは、見捨てられた人々の護り手。
望みなき人々の救い主。
希望を抱く捕らわれ人よ、砦に帰れ。
主に望みをおき続ける人々は、
幸いである。
主はその人たちの罪を赦し、
その罪を思い出すことはない。

PART II

INTRODUCTION (ORCHESTRAL)

IV. THE BETRAYAL

RECITATIVE (TENOR):

And it came to pass that He went throughout every city and village, preaching and shewing the glad tidings of the kingdom of God:
and the Twelve were with Him;
And he began to teach them, that the Son of man must suffer many things, and be rejected, and be killed.

CHORUS:

"I will smite the Shepherd, and the sheep of the flock shall be scattered abroad."

第２部

序奏（オーケストラ）

IV. 裏切り

レチタティーヴォ（テノール）：

その後、イエスは町や村を巡って旅を続け、
福音を告げ知らせながら、
神の国を宣（の）べ伝え続けられた。
12 人も一緒だった。
それからイエスは、「人の子は必ず多くの苦しみを受け、排斥され、殺されることになっている」と弟子たちに教え始められた。

合唱：

「私は羊飼いを打つ。
すると羊の群れは散ってしまう」。

Peter:
Be it far from Thee, Lord, this shall never be
unto Thee.
Though all men shall be offended because of
Thee, yet will I never be offended.
The Apostles:
Though we should die with Thee, yet will we
not deny Thee.
CHORAL RECITATIVE (TENORS AND BASSES):
Then gathered the chief Priests and Pharisees
a council, and said:——
"What do we ?
For this Man doeth many miracles."
So from that day forth they took counsel that
they might put Him to death.
Then entered Satan into Judas, and went his
way, and communed with the chief
Priests and Captains.
Judas:
What are ye willing to give me, and I will
deliver Him unto you?
CHORUS (TENORS AND BASSES):
And they weighed unto him thirty pieces of silver.
Judas then, having received a band of men
and officers, cometh with lanterns and
torches and weapons.
Judas:
(Let Him make speed, and hasten His work,
that we may see it; He shall bear the glory,
and shall sit and rule upon His throne, the
great King,——the Lord of the whole earth.)
Whomsoever I shall kiss, that same is He
hold Him fast.

IN GETHSEMANE
Judas:
Hail, Master!
Jesus:
Whom seek ye?
The People:
Jesus of Nazareth.
Jesus:
I am He:
if therefore ye seek Me,

ペトロ：
主よ、とんでもないことです。あなたの身に、
そのようなことがあってはなりません。
たとえ、みんながあなたにつまずいても、
私は決してつまずきません。
使徒たち：
たとえ、ご一緒に死なねばならなくなっても、
あなたのことを知らないなどと決して申しません。
合唱によるレチタティーヴォ（テノール、バス）：
その頃、祭司長たちとファリサイ派の人々は、
最高法院を召集して、こう言った：
「どうすればよいか？
この男は多くの奇跡のしるしを行っているが……」。
この日から、彼らは
イエスを殺そうとたくらんだ。
その後、ユダの中に、サタンが入った。
ユダは祭司長や神殿守衛長たちのもとに行き、
相談をもちかけた。
ユダ：
あの男をあなたたちに引き渡せば、
いくらくれますか？
合唱（テノール、バス）：
彼らは銀貨30枚を支払うことにした。
そこでユダは、一隊の兵士と下役たちを引き連れて、
そこにやって来た。彼らは、松明（たいまつ）や
ともし火や武器を手にしていた。
ユダ：
（その方を急がせよ、早く事を起こさせよ。
それを見せてもらおう。主は威光をまとい、
王座に座して治められるかた。
偉大な王、全治の主）。
わたしが接吻するのが、その人だ。
それを捕まえろ。

ゲツセマネの園で
ユダ：
先生、こんばんは！
イエス：
だれを捜しているのか？
群衆：
ナザレのイエスだ。
イエス：
それは私である。
私を捜しているのなら、

let these go their way.
RECITATIVE (CONTRALTO):
And they all forsook Him and fled;
but Peter followed Him afar off,
to see the end.
CHORAL RECITATIVE (TENORS AND BASSES):
And they that had laid hands on Jesus, led
Him away to the High Priest.

この人々は去らせなさい。
レチタティーヴォ（コントラルト）：
弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。
しかしペトロは遠く離れてイエスのあとに従い、
事の成り行きを見ようとした。
合唱によるレチタティーヴォ（テノール、バス）：
人々はイエスを捕らえると、
大祭司のところへ連れて行った。

IN THE PALACE OF THE HIGH PRIEST
Servants:
Thou also wast with Jesus of Nazareth;
this man was also with Him.
Peter:
I know not what thou sayest.
Servants:
Art not thou also one of His disciples?
Peter:
As thy soul liveth, I am not.
Servants:
Did not we see thee in the garden with him?
Surely thou also art one of them.
Peter:
I swear by the Lord, I know not this Man of
whom ye speak.
RECITATIVE (CONTRALTO):
Then led they Jesus unto the hall of judgment.
CHORUS (SOPRANOS AND CONTRALTOS):
And the Lord turned and looked upon Peter.
and he went out, and wept bitterly.
RECITATIVE (CONTRALTO):
Then Judas, which had betrayed Him, when
he saw that He was condemned, repented
himself, and brought again the thirty pieces
of silver to the chief Priests and Elders.

大祭司の屋敷で
女中と下役たち：
あなたもナザレのイエスと一緒にいた。
これは、一緒にいた男です。
ペトロ：
何のことを言っているのか、私には分からない。
女中と下役たち：
お前もあの男の弟子の一人ではないのか？
ペトロ：
誓って言うが、私は違う。
女中と下役たち：
園であの男と一緒にいるのを、私たちに見られた
ではないか。たしかにこの人は一緒だった。
ペトロ：
主に誓って言うが、私はあなたの言っている
そんな人など知らない。
レチタティーヴォ（コントラルト）：
その後、人々はイエスを総督の官邸に連れて行った。
合唱（ソプラノ、コントラルト）：
主は振り向いてペトロを見つめられた。
ペトロは外に出て、激しく泣いた。
レチタティーヴォ（コントラルト）：
そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに
有罪の判決が下ったのを知って後悔し、
銀貨30枚を祭司長たちや長老たちに
返そうとした。

THE TEMPLE
The Singers (within the Temple):
O Lord God, to Whom vengeance belongeth,
lift up Thyself, Thou Judge of the earth.
O Lord God, to Whom vengeance belongeth,
render a reward to the proud.
Lord, how long shall the wicked,
how long shall the wicked triumph?

神殿で
歌い手たち（神殿の内部で）：
主よ、報復の神である主よ、
全地の裁き手として立ち上がってください。
主よ、報復の神である主よ、
誇る者を罰してください。
主よ、逆らう者はいつまで、
逆らう者はいつまで、勝ち誇るのでしょうか？

Judas:
My punishment is greater than I can bear.
The Singers:
How long shall they utter and speak hard things?
  and all the workers of iniquity boast themselves?
They break in pieces Thy people, O Lord,
  and afflict Thine heritage.
Judas:
Mine iniquity is greater than can be forgiven.
The Priests:
A voice of trembling, ——of fear,
Why art thou so grieved in thy mind?
Judas:
I have sinned in that I have betrayed the
  innocent blood.
The Priests:
What is that to us? See thou to that.
Judas:
I have sinned,
——I have betrayed the innocent——
The Priests:
SELAH!
RECITATIVE (CONTRALTO):
And he cast down the pieces of silver and departed.
The Singers (within the Temple):
Lord, how long shall the wicked triumph?
Yet they say, the Lord shall not see:
He that planted the ear, shall He not hear?
He that formed the eye, shall He not see?
Judas (without the Temple):
Whither shall I go from Thy Spirit?
Or whither shall I flee from Thy presence?
If I say, Peradventure the darkness shall cover me,
  then shall my night be turned to day,——
  yea, the darkness is no darkness with Thee,
  but the night is as clear as the day.
Sheol is naked before Thee,
  and Abaddon hath no covering.
The Singers (within the Temple):
Blessed is the man whom Thou chastenest,
  that Thou mayest give him rest from the days
  of adversity,——
Judas:
"Rest from the days of adversity,"——

ユダ：
私の罰は重すぎて、負いきれません。
歌い手たち：
主よ、彼らはいつまで驕った言葉を吐き続け、
  悪を行う者が傲慢に語り続けるのでしょう？
彼らはあなたの民を引き裂き、
  あなたの嗣業（しぎょう）を苦しめています。
ユダ：
私の罪は大きすぎて、赦されるものではありません。
祭司たち：
戦慄の声、恐怖の声がする。
おまえはなぜそのように嘆き苦しむのか？
ユダ：
私は罪のない人の血を売り渡し、
  罪を犯しました。
祭司たち：
我々の知ったことではない。お前の問題だ。
ユダ：
私は罪を犯しました
——罪のない人の血を売り渡したのです——
祭司たち：
セラ！
レチタティーヴォ（コントラルト）：
ユダは銀貨を神殿に投げ込み、そして立ち去った。
歌い手たち（神殿の内部で）：
主よ、逆らう者はいつまで勝ち誇るのでしょう？
そして彼らは言います「主は見ていない」と。
耳を植えた方に聞こえないというのでしょうか？
目を造った方に見えないというのでしょうか？
ユダ（神殿の外で）：
どこに行けば、あなたの霊から離れられましょう？
どこに逃れれば、御顔を避けられましょう？
たとえ私を闇が覆ったとしても、
  私の夜は、昼に変えられるでしょう——
  闇もあなたと共にあれば闇ではない。
  夜さえ、昼のように明るく輝く。
主の前では、死者の国もあばかれ、
  アバドンの淵も、飲み込むことはない。
歌い手たち（神殿の内部で）：
いかに幸いなことでしょう、主に諭（される人は。
  その人は、苦難が襲うときにも、
  静かに待ちます。
ユダ：
「苦難が襲うときにも、静かに待つ」——

Never man spake like this Man;
He satisfied the longing soul,
  and filled the hungry soul with goodness.
The Singers:
——until the pit be digged for the wicked.
Judas:
Our life is short and tedious,
  and in the death of a man there is no remedy;
  neither was there any man known to have
  returned from the grave.
For we are born at all adventure,
  and we shall be hereafter as though
  we had never been;
  for the breath in our nostrils is as smoke,
  and a little spark in the moving of out heart,
  which being extinguished,
  our body shall be turned into ashes, and
  our spirit shall vanish as the soft air,
  and our name shall be forgotten in time,
  and no man have our work in remembrance;
  and our life shall pass away as the trace of a cloud,
  and shall be dispersed as a mist,
  that is driven away with the beams of the sun,
  and overcome with the heat thereof.
The Singers:
The Lord knoweth the thoughts of man,
  that they are vanity.
Judas:
"The Lord knoweth the thoughts of man,"——
My hope is like dust that is blown away with the wind;
  it is not possible to escape Thine hand,——
  a sudden fear, and not looked for, comes upon me.
The People (remote):
Crucify Him!
Judas:
They gather themselves together
  and condemn the innocent blood.
The People:
Crucify Him!
Judas:
Mine end is come,
  ——the measure of my covetousness;
  over me is spread an heavy night,
  an image of that darkness

今まで、あの方のように話した人はいません。
主は渇いた魂を満ち足らせ、
  飢えた魂を良いもので満たしてくださった。
歌い手たち：
——神に逆らう者には、滅びの穴が掘られている。
ユダ：
私たちの命は短く、つまらぬもの。
  人の死に対しては、手の施しようもない。
  死んだ者がふたたび墓から戻ったためしを
  聞いたことがない。
私たちは先も分からぬままに生まれ、
  それから後も、
  行方知れぬ道をたどる。
  私たちの命の息吹は、煙のようにはかなく、
  私たちの胸の鼓動は、かすかな閃きにすぎない。
  そしてそれが止まるとき、
  私たちの身体は灰燼に帰し、
  私たちの霊は微風のように消える。
  私たちの名前はたちまちにして忘れ去られ、
  私たちの業を思い起こす者もなくなる。
  私たちの命は、雲のように流れ去り、
  まるで霧のように散らされる。
  日の光によって、散らされ、
  その熱によってかき消される。
歌い手たち：
主は知っておられる、人間の計らいを。
  そして、それがいかに空しいかを。
ユダ：
「主は知っておられる、人間の計らいを」——
私の望みは、風に吹き飛ばされる塵に等しい。
  主よ、あなたの御手を逃れることはできない。
  突然、予期せぬ恐れが私を襲う。
群衆（遠方で）：
その男を十字架にかけろ！
ユダ：
彼らは一団となって
  潔白な人の血を流そうとしている。
群衆：
その男を十字架にかけろ！
ユダ：
私の最期の時がやってきた。
——私の欲望の限界の時が。
私の上に夜が重くのしかかる。
その闇の影が、

which shall afterward receive me: yet am I unto
myself more grievous than the darkness.
The Singers (within the Temple):
He shall bring upon them their own iniquity.

やがて私を捕らえるだろう。しかし私は
その闇よりも、私自身をことを嘆く。
歌い手たち（神殿の内部で）：
主は、彼らの悪に報いるだろう。

V. GOLGOTHA

"Eli, Eli, lama sabachthani?"
CHORUS:
Truly this was the Son of God.
Mary:
The sword hath pierced through mine own soul.
Mary and John:
Thou hast trodden the winepress alone,
and of Thy people there was none with Thee.
They shall look upon Him Whom they have pierced,
and they shall mourn for Him,
as one mourneth for his only son,
And shall be in bitterness for Him,
as one that is in bitterness for his firstborn.
Mary:
The sword hath pierced through mine own soul.

V. ゴルゴタ

「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」
合唱：
本当に、この人は神の子だった。
マリア：
その剣は、私自身の心を刺し貫いた。
マリアとヨハネ：
あなたは独りで酒ぶねを踏んだ。
あなたの民は、誰ひとりあなたに伴わなかった。
彼らは、自らが刺し貫いた主を見つめ、
主の死を嘆く——
まるで、独り子を失った者のように。
そして、主の死を悲しむ——
まるで初子（ういご）の死を悲しむかのように。
マリア：
その剣は、私自身の心を刺し貫いた。

VI. AT THE SEPULCHRE

RECITATIVE (CONTRALTO):
And very early in the morning they came
unto the sepulchre at the rising of the sun;
and they entered in, and found not the body of
the Lord Jesus.
The Watchers (on the Temple roof)
The face of all the East is now ablaze with
light; the Dawn reacheth even unto Hebron !
CHORUS OF ANGELS (SOPRANOS & CONTRALTOS)
Alleluia !
Why seek ye the living among the dead ?
He is not here, butis risen,
Behold the place where they laid Him,
Go, tell His disciples and Peter that He goeth
before you into Galilee: there shall ye see
Him, as He said unto you.
Alleluia !

VI. 墓で

レチタティーヴォ（コントラルト）：
彼女たちは、朝ごく早く、
日が出るとすぐ墓に行った。
中に入っても、主イエスの遺体が
見当たらなかった。
見張りたち（神殿の城壁の上で）：
東の壁は、今、光に満ちて輝き、
ヘブロンの谷にも夜明けが訪れた！
天使の合唱（ソプラノ、コントラルト）：
ハレルヤ！
なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか？
あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。
御覧なさい。主をお納めした場所である。
さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい：
「あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行き、
かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる」と。
ハレルヤ！

VII. THE ASCENSION

The Apostles:
We trusted that it had been He which should
have redeemed Israel.
Jesus:
Peace be unto you.
Behold, I send the promise of My Father
upon you: but tarry ye in the city of Jerusalem
until ye be endued with power from on high.
The Apostles:
Lord, wilt Thou at this time restore again the
kingdom to Israel ?
Jesus:
It is not for you to know the times or the seasons,
which the Father hath put in His own power.
But ye shall receive power, when the Holy
Ghost is come upon you.
Go ye therefore, and teach all nations,
baptizing them in the name of the Father,
and of the Son, and of the Holy Ghost;
and, lo, I am with you always, even unto the
end of the world.
RECITATIVE (CONTRALTO):
And when He had spoken these things——
while He blessed them——He was taken up;
and a cloud received Him out of their sight;
and they looked stedfastly toward heaven.
The Apostles:
Give us one heart, and one way:
in Thy light shall we see light;
Thou wilt shew us the path of life.
MYSTIC CHORUS (in Heaven):
Alleluia !
Mary, Mary Magdalene, John, and Peter:
Give us one heart, and one way.
Mary:
My soul doth magnify the Lord: and my
spirit hath rejoiced in God my Saviour.
Mary Magdalene:
Thou drewest near in the day that I called
upon Thee; Thou saidst, Fear not.

VII. 昇天

使徒たち：
私たちは、あの方こそイスラエルを解放して
くださると、望みをかけていました。
イエス：
あなたがたに平和があるように。
私は、父が約束されたものをあながたに送る。
高い所からの力に覆われるまでは、
エルサレムの都にとどまっていなさい。
使徒たち：
主よ、イスラエルのために国を建て直して
くださるのは、この時ですか？
イエス：
父が御自分の権威でお定めになった時や時期は、
あなたがたの知るところではない。
しかし、あなたがたの上に聖霊が降（くだ）ると、
あなたがたは力を受ける。
そのときには、あなたがたは行って、
すべての国の人々に宣べ伝え、
父と子と聖霊の名によって、洗礼を授けなさい。
見よ、私はいつもあなたがたと共にいる。
世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。
レチタティーヴォ（コントラルト）：
こう話し終わると——
人々を祝福しながら——彼は天に上げられた。
そして雲に覆われ、彼らの目から見えなくなった。
彼らはずっと天を見つめていた。
使徒たち：
私たちに１つの心と、１つの道を与えてください。
あなたの光に、私たちは光を見ます。
あなたは私たちに命の道を教えてくださいます。
神秘的な合唱（天の上から）
ハレルヤ！
マリア、マグダラのマリア、ヨハネ、ペトロ：
私たちに１つの心と、１つの道を与えてください。
マリア：
私の魂は、主をあがめ、
私の霊は、救い主である神を喜びたたえます。
マグダラのマリア：
私があなたを呼び求めているときには、近づいて、
「恐れるな」と言ってください。

Peter:
For He hath not despised nor abhorred the
affliction of the afflicted:
neither hath He hid His face from him:

The Apostles and the Holy Women:
but when he cried unto Him, He heard.
MYSTIC CHORUS:
Alleluia !
"Holy Father, keep through Thine own name
those whom Thou hast given Me, that
they may be one, as We are."
The Apostles and the Holy Women:
All the ends of the world shall remember and
turn unto the Lord:
and all the kindreds of the nations shall worship
before Thee.
for the kingdom is the Lord's:
and He is the Governor among the nations.
MYSTIC CHORUS:
Alleluia !
"I have done Thy commandment.
I have finished the work which Thou gavest
Me to do;
I laid down My life for the sheep."
The Apostles:
"In the world ye shall have tribulation:
but be of good cheer;
I have overcome the world."
MYSTIC CHORUS:
"What are these wounds in Thine hand?"
"Those with which I was wounded
in the house of My friends."
They platted a crown of thorns,
and put it about His head,——
they mocked Him,——
they spat upon Him,——
they smote Him with a reed,——
they crucified Him.
Alleluia !
The Apostles and the Holy Women:
They shall come, and shall declare His
righteousness
unto a people that shall be born, that He

ペトロ：
主は貧しい人の苦しみを
決して侮らず、さげすまれません。
その人から御顔を隠すこともありません。

使徒たちと、聖なる婦人たち：
そして、助けを求める叫びを聞いてくださいます。
神秘的な合唱：
ハレルヤ！
「聖なる父よ、あなたの御名（みな）によって、
彼らを守ってください。
私たちのように、彼らも１つになるためです」。
使徒たちと、聖なる婦人たち：
地の果てまで、すべての人が主を認め、
みもとに立ち帰り、
国々の民があなたの御前（みまえ）に
ひれ伏しますように。
王権は主にあり、
主は国々を治められます。
神秘的な合唱：
ハレルヤ！
「主よ、私はあなたの戒めを実行します。
私は、行うようにとあなたが与えてくださった
業（わざ）を成し遂げます。
私は羊のために命を捨てます」。
使徒たち：
「あなたがたには世で苦難がある。
しかし勇気を出しなさい。
私はすでに世に勝っている」。
神秘的な合唱：
「あなたの御手のその傷はどうしたのですか？」
「この傷は、私が友人の家にいたときに、
そこで受けた傷です」。
彼らは茨で冠を編んで
主の頭に載せ、
主を侮辱した。
彼らは主に唾を吐きかけ、
葦の棒を取り上げて頭をたたき、
彼らは主を十字架につけた。
ハレルヤ！
使徒たちと、聖なる婦人たち：
子孫たちは、主の成し遂げてくださった
恵みの御業（みわざ）を、
これから生まれる民の末代まで

hath done this.
MYSTIC CHORUS:
"Now I am no more in the world,
but these are in the world,
and I come to Thee."
The Apostles and the Holy Women:
The Kingdom is the Lord's:
and He is the Governor among the nations.
MYSTIC CHORUS:
From henceforth shall the Son of man be
seated at the right hand of the power of God
Mary, Mary Magdalene, John, and Peter:
In His love and in His pity
He redeemed them.

TUTTI:
Alleluia !

告げ知らせるでしょう。
神秘的な合唱：
「私は、もはや世にはいません。
しかし彼らは世に残ります。
私は、父のみもとに行きます」。
使徒たちと、聖なる婦人たち：
王権は主にあり、
主は国々を治められます。
神秘的な合唱：
今から後、人の子は
全能の神の右に座るでしょう。
マリア、マグダラのマリア、ヨハネ、ペトロ：
主は、その愛と慈しみをもって、
彼らを贖（あがな）ってくださった。

全員
ハレルヤ！

エルガー：オラトリオ《神の国》作品 38
Edward Elgar, *The Dream of Gerontius*, opus 38
歌詞対訳：秋岡　陽[51]

PRELUDE.	前奏曲
I. IN THE UPPER ROOM.	第Ⅰ部　上の部屋で
The Disciples and the Holy Women.	使徒たちと、信じて従った婦人たち
Seek first the Kingdom of God.	何よりもまず、神の国を求めなさい、
and His righteousness.	そして神の義を求めなさい。
Peter.	ペトロ
Peace be multiplied unto you.	平安があなたたちにあるように。
The Disciples and the Holy Women.	使徒たちと、信じて従った婦人たち
Peace; peace be unto thee,	平安――平安があなたにもあるように。
and peace be to thine helpers.	そしてあなたの助け手たちにもあるように。
Peter.	ペトロ
"Where two or three are gathered together	「２人または３人が
in My Name,	わたしの名によって集まるところには、
there am I in the midst of them."	わたしもその中にいるのである。」
Mary, Mary Magdalene, John aud Peter.	マリア、マグダラのマリア、ヨハネ、ペトロ
Remember the words of the Lord Jesus,-	主イエスの言葉を思い起こそう。
The Disciples and the Holy Women.	使徒たちと、信じて従った婦人たち
Jesus, the Holy One.	イエス・キリスト、聖なる主。
John.	ヨハネ
"Surely they are My people":	「まさしく彼らはわたしの民である」――
The Disciples and the Holy Women.	使徒たちと、信じて従った婦人たち
so He was their Saviour ;	そう主は言われ、彼らの救い主となられた。
Mary.	マリア
For while all things were in quiet silence,	すべてが静まり返った夜、
and that night was in the midst of her swift	夜のしじまの
course,	時の経過のそのなかで、
Thine almighty Word leaped down from heaven	あなたの全能のみ言は
out of Thy royal throne.	天のあなたの玉座からくだって来られた。
The Disciples and the Holy Women.	使徒たちと、信じて従った婦人たち
The Light of the world.	世の光としてくだって来られた。
Mary Magdalene.	マグダラのマリア
The Dayspring from on high hath visited us,	夜明けが、天からわたしたちに与えられた。
to guide our feet into the way of peace.	わたしたちの歩みを平和の道へと導くために。
The Disciples aud the Holy Women.	使徒たちと、信じて従った婦人たち

[51]この歌詞対訳は、2002 年 3 月 9 日に行われた東京交響楽団・大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第 61 回演奏会のために用意したものをもとに、今回あらたに改訂を加えたものである。

The Way,
the Truth,
and the Life.
John.
Did not their heart burn within them,
while He talked with them by the way?
Peter.
He took bread,
and blessed it,
and brake,
and gave it to us.
The Disciples and the Holy Women.
The true Vine;
the Bread of Life.
All.
Let them give thanks
whom the Lord hath redeemed;
He remembered His holy promise.
In the concord of brethren,
in the love of neighbours,
O praise the Name of the Lord our God.
The true Vine,
The Bread of Life:
He brake,
and gave It to us.
Praise the Name of our God,
That hath dealt wondrously with us.
Amen.
Peter.
Men and brethren:
it was needful that the scripture should be
fulfilled, which the Holy Ghost spake before
by the mouth of David concerning Judas,
who was guide to them that took Jesus: for
he was numbered among us, and had
obtained part of this ministry.
The Disciples aud the Holy Women.
"Let his habitation be desolate,
and let no man dwell therein
and his office let another take."
Peter.
Wherefore of these men which have companied
with us all the time that the Lord Jesus
went in and out among us, must one be

道であり、
真理であり、
命である主。
ヨハネ
道をゆく途中、主が彼らと話しておられたとき、
彼らの心は燃えていたではないか、
ペトロ
主はパンをとり、
それを祝福し、
裂き、
そしてわたしたちにくださった。
使徒たちと、信じて従った婦人たち
まことのぶどうの木であり、
命のパンである主よ。
一同
主によって贖（あがな）われた者たちよ
主に感謝せよ。
主はその尊い約束を忘れることはない。
兄弟たちの一致と、
隣人たちの愛をとおして、
わたしたちの神である主の名をたたえよう。
それは、まことのぶどうの木、
命のパン。
主はそれを裂き、
わたしたちに与えてくださった。
わたしたちの神の名をたたえよう。
わたしたちに素晴らしいことをしてくださる神。
アーメン。
ペトロ
兄弟たちよ、
聖書の言葉は実現しなくてはなりませんでした。
ユダについても、聖霊がダビデの口をとおして
預言しています。ユダは、
イエスを捕らえた者たちの手引きをしましたが、
もともと、わたしたちの仲間の一人として、
同じ任務の一部を与えられていました。
使徒たちと、信じて従った婦人たち
「その住まいは荒れ果てよ、
そこに住む者はいなくなれ。
その務めは、ほかの人が引き受けるがよい。」
ペトロ
そこで、主イエスがわたしたちのもとに来られ、
やがて去られるまでの間、いつも一緒にいた者
の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、

ordained to be a witness with us of His resurrection.

主の復活の証人になるべきです。

Peter, John aud the Disciples.

ペトロ、ヨハネ、使徒たち

Thou, Lord,
Which knowest the hearts of all men,
shew of these two
the one whom Thou hast chosen,
to take the place in this ministry
and apostleship.

主よ、
すべての人の心をご存知である主よ、
この２人のうちどちらをお選びになったのか、
それをお示しください。
使徒としてこの任務を継ぐのは、どちらの者
ですか？

CHORAL RECITATIVE.

合唱によるレチタティーヴォ

They gave forth their lots:
(The lot is cast; but the whole disposing
thereof is of the Lord).
and the lot fell upon Matthias;
and he was numbered
with the eleven Apostles.

彼らは２人のことでくじをひいた。
（くじは、主の御心を知るためのものとして
ひかれた）。
くじに当たったのはマティアだった。
そこでマティアが 11 人の使徒の仲間に
加えられることになった。

John, Petor, Mary, Mary Magdalene, the Disciples and the Holy Women.

ヨハネ、ペトロ、マリア、マグダラのマリア、使徒たち、信じて従った婦人たち

The Lord hath chosen you
to stand before Him to serve Him;
you shall be named the Priest of tie Lord.

主があなたを選ばれた。
主の前に立ち、主につかえる者として、
あなたは主の使徒となる。

CHORUS.

合唱

O ye priests!
Seemeth it but a small thing
that God hath separated you
to bring you near to Himself,
to stand before the congregation
to minister unto them ?
For it is not ye that speak,
but the Spirit of your Father
Which speaketh in you:
the Lord hath chosen you;
ye are the messengers
of the Lord of hosts.
It is not ye that speak,
but the Spirit of your Father
Which speaketh in you.
O ye priests!
This commandment is for you.

ああ、使徒たちよ、
考えてみるがよい。
神があなたたちを分かち、
それによってあなたたちを神ご自身に近づけ、
会衆の前に立たせて彼らのための務めにつか
せたことは、なんと偉大なことではないか？
語るのはあなたがたではなく、
あなたがたの父の霊なのだから。
父の霊があなたの中で語るのだ。
主があなたを選ばれた。
あなたがたは、主の軍勢の
使いの者となる。
語るのはあなたがたではなく、
あなたがたの父の霊である。
父の霊があなたの中で語るのである。
ああ、使徒たちよ！
これがあなたたちに与えられた戒めである。

II. AT THE BEAUTIFUL GATE.

第Ⅱ部　「美しい門」で

THE MORN OF PENTECOST.

五旬祭（聖霊降臨祭）の朝

Mary and Mary Magdalene.
The singers are before the altar;
they make sweet melody,
and sing the words of David,
the sweet psalmist;
he beautified the feasts
that the temple might sound from morning.
The Lord hath prepared a sacrifice;
the day of the First-Fruits.
This man, lame from his mother's womb,
is carried daily to the Beautiftil Gate;
To him that is afflicted pity should be shewed;
let us give alms of such things as we have.
The blind and the lame came to Jesus
in the temple,
and He healed them,
He knew their sorrows;
Himself took their infirmities,
and bare their sicknesses.
He hath looked down from the hight of
His sanctuary, to hear their sighing.
The service of the Lord is prepared:
the day of the First-Fruits:
let us go into the house of the Lord.

マリアと、マグダラのマリア
歌い手たちが、祭壇の前で、
甘美な調べをかなでています。
彼らが歌っているのは、ダビデの言葉。
よき詩編作者ダビデの歌。
ダビデの歌は祭を美しくいろどり、
神殿には、朝から、楽の音が響き渡ります。
主はすでに、いけにえをそなえられました。
今日こそは、初穂の収穫を祝う、祭の日。
すると、生まれながら足の不自由な男が一人、
今日も神殿の「美しい門」の所に運ばれて来た。
重荷を負う者には、憐れみを。
わたしたちも持てる物を施しましょう。
イエスが神殿におられたときも、
目や足の不自由な者たちがやってきました。
そんな彼らを、主は癒されたのです。
イエスは、彼らの悲しみを知り、
ご自身でその重荷をひきうけ、
彼らの病をとりのぞかれたのでした。
主は、その聖所の高みから視線を投げかけ、
彼らのため息を聴き取られたのです。
主の礼拝の準備は整いました。
今日こそは、初穂の収穫を祝う、祭の日。
わたしたちも主の家に入りましょう。

III. PENTECOST.

IN THE UPPER ROOM.
RECITATIVE. (TENOR.)
And when the day of Pentecost was fully come,
they were all with one accord in one place.
The Disciples.
When the great Lord will,
we shall be filled
with the Spirit of understanding.
MYSTIC CHORUS
(SOPRANOS AND CONTRALTOS).
The Spirit of the Lord shall rest upon them;
the spirit of wisdom and understanding.
the spirit of counsel and might,
the spirit of knowledge.
Come from the four winds,
O Spirit!

第Ⅲ部　五旬祭（聖霊降臨）

上の部屋で
レチタティーヴォ（テノール）
いよいよ、五旬祭の日が来た。
その日、一同は一つになって集まっていた。
使徒たち
偉大な主のみ心にかなう時が来たなら、
わたしたちは智恵の霊で
満たされるだろう。
神秘的な合唱
（ソプラノとコントラルト）
主の霊が彼らのうえにとどまるだろう。
それは、智恵と識別の霊、
思慮と勇気の霊、
主を知る霊。
四方の風から来てください、
ああ、聖霊よ！　（主は次のように言っています）

"I will pour forth of My Spirit,
and they shall prophesy;
and I will shew wonders in the heaven above,
and signs on the earth beneath."
John.
When the Comforter is come,
we shall bear witness;
Peter.
and speak as moved
by the Holy Spirit.
The Disciples.
When the great Lord will,
we shall be filled
with the Spirit of understanding.
RECITATIVE. (CONTRALTO.)
And suddenly there came from heaven a sound
as of the rushing of a mighty wind, and it
filled all the house where they were sitting;
and there appeared unto them tongues
parting asunder, like as of fire; and it
sat upon each one of them:-
And they were all filled with the Holy Spirit,
and began to speak with other tongues,
as the Spirit gave them utterance.
The Disciples.
He, Who walketh upon the wings of the wind,
shall baptize with the Holy Ghost.
and with fire,
He, Whose ministers are flaming fire,
shall baptize with the Holy Ghost,
and with fire.
MYSTIC CHORUS. (SOPRANOS AND ALTOS.)
(The Lord put forth His hand,
and touched their mouth;
God hath spoken,
who can but prophesy ?)
RECITATIVE. (CONTRALTO.)
And there were dwelling in Jerusalem
Jews, devout men, from every nation under
heaven; and when this sound was heard,
the multitude came together, and were all
amazed, and marvelled.

IN SOLOMON'S PORCH.

「わたしは、わたしの霊を注ぐだろう。
すると人々は預言するだろう。
その日、わたしは、天には不思議を、
地にはしるしを示すだろう」と。
ヨハネ
その助け手がやって来たなら、
わたしたちは、それを証するだろう。
ペトロ
そして、聖霊が語らせるままに
語るだろう。
使徒たち
偉大な主のみ心にかなう時が来たなら、
わたしたちは智恵の霊で
満たされるだろう。
レチタティーヴォ（コントラルト）
すると突然、激しい風が吹いて来るような音が
天から聞こえ、
それは、彼らが座っていた家中に響いた。
そして、炎のような舌が
分かれ分かれに現れ、
一人一人の上にとどまった。
すると一同は聖霊に満たされ、
霊が語らせるままに、
ほかの国々の言葉を話しだした。
使徒たち
風の翼にのって歩く神は、
聖霊と火によって、
洗礼をほどこす。
燃えさかる炎をつかさどる神は、
聖霊と火によって、
洗礼をほどこす。
神秘的な合唱（ソプラノとアルト）
（主は、その手をさしのべ、
彼らの口にお触れになった。
神が語りかけたとき、
誰が預言せずにいられるだろう？）
レチタティーヴォ（コントラルト）
さて、エルサレムには天下のあらゆる国から
帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、
この物音に大勢の人が集まって来た。
そして、だれもかれもが、あっけにとられ、
驚嘆した。

ソロモンの回廊で

The People.
Behold, are not all these which speak,
Galilaeans?
And how hear we, every man in our tongue,
wherein we were born?
John.
He, Who walketh upon the wings of the wind,
hath baptized with the Holy Ghost,
and with fire.
The People.
We do hear them speak in our tongues the
wonderful works of God!
Peter.
He, Whose ministers are flaming fire,
hath baptized with the Holy Ghost,
and with fire.
The People.
What meaneth this?
These men are full of new wine.
They are truly full of power,
even the Spirit of the Lord.
They drink, and forget the law,
And pervert the judgment.
With stammering lips
and another tongue
will He speak to this people.
When they heard, they trembled;
like men whom wine hath overcome,
their lips quiver.
Because of the Lord,
and because of the words of His holiness.
We hear them speak in our tongues;
what meaneth this?
Peter.
("I have prayed for thee, that thy faith fail
not; and thou, when thou art converted,
strengthen thy brethren.")
Ye men of Judaea,
and all ye that dwell at Jerusalem,
be this known unto you,
and give ear unto my words:
This is that which was spoken by the Prophet,-
"It shall come to pass in the last days,
saith God,

群衆
ごらんなさい、話をしているこの人たちは、
皆ガリラヤの人ではないか。それなのに、
わたしたちには、自分たちの故郷の言葉が
聞こえてくる。これはいったいどうしたことか？
ヨハネ
風の翼にのって歩く神は、
聖霊と火によって、
洗礼をほどこす。
群衆
彼らがわたしたちの言葉で神の偉大なわざを
語っているのを、聞こうとは！
ペトロ
燃えさかる炎をつかさどる神は、
聖霊と火によって、
洗礼をほどこす。
群衆
いったい、これはどういうことなのか？
彼らは、新しいぶどう酒に満たされている。
彼らは、まさしく力に満ち、
主の霊で満たされている。
酒を飲んだ彼らは、おきてを忘れ、
裁きを曲げる。
口ごもる唇と、
異なる言葉によって、
主は人々に語りかける。
その言葉を聞くとき、人々は震える。
酒に酔った人のように、
その唇は震える。
それもみな、主のゆえ。
主の、聖なるみ言のゆえ。
彼らは、なんとわたしたちの言葉で話している。
いったい、これはどういうことなのか？
ペトロ
（「わたしはあなたのために、信仰が無くならない
ように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、
兄弟たちを力づけてやりなさい。」）
ユダヤのみなさん、
またエルサレムに住むすべてのみなさん、
知っていただきたいことがあります。
わたしたちの言葉に耳を傾けてください。
これこそ預言者を通して言われていたことです。
「神は言われる。
終わりの時に、

I will pour forth of My Spirit upon all flesh:
and your sons and your daughters shall
prophesy,
and your young men shall see visions,
and your old men shall dream dreams;
and it shall be that whosoever shall call on
the Name of the Lord shall be saved."
Ye men of Israel, hear these words:
Jesus of Nazareth,
a Man approved of God unto you
by mighty works, and wonders, and signs,
which God did by Him in the midst of you,
as ye yourselves also know;
Him, being delivered up by the determinate
counsel and foreknowledge of God,
ye, by the hand of lawless men
did crucify and slay:
this Jesus hath God raised up,
whereof we are all witnesses.
CHORUS. (SOPRANOS AND CONTRALTOS.)
(The Lord put forth His hand,
and touched their mouth;
God hath spoken,
who can but prophesy ?)
Peter.
Therefore,
being exalted at the right hand of God,
and having received of the Father
the promise of the Holy Ghost,
He hath poured forth this,
which ye now see and hear.
Let all the house of Israel know assuredly,
that God hath made Him
both Lord and Christ;-
this Jesus Whom ye crucified.
The People. (Tenors and Basses.)
("His blood be on us,
and on our children.")
Peter.
Whom ye crucified.
CONTRALTO. (SOLO.)
("Daughters of Jerusalem,
weep not for Me,
but weep for yourselves,

わたしの霊をすべての人に注ぐ。
すると、あなたたちの息子と娘は
預言をし、
若者は幻を見、
老人は夢を見る。
主の名を呼び求める者は皆、
救われる。」
イスラエルのみなさん、どうか聞いてください。
ナザレの人イエスこそ、
神から遣わされた方です。
神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた
奇跡と、不思議なわざと、しるしとによって、
そのことをあなたがたに証明なさいました。
このイエスを神は、お定めになった計画により、
あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引渡した
のですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手
を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。
しかし、神はこのイエスを復活させられましたが、
それはわたしたちみなが知っているとおりです。
合唱（ソプラノとコントラルト）
（主は、その手をさしのべ、
彼らの口にお触れになった。
神が語りかけたとき、
誰が預言せずにいられるだろう？）
ペトロ
それで、
イエスは神の右に上げられ、
約束された聖霊を
御父から受けて
注いでくださいました。あなたがたは
今そのことを見聞きしているのです。
イスラエルの全家は、はっきり知らなくては
なりません。あなたがたが十字架につけて
殺したイエスを、神は主とし、またキリスト
となさったのです。
群衆（テノールとバス）
（「その血の責任は、我々と
その子孫にある。」）
ペトロ
あなたがたが十字架につけて殺したイエスを……。
コントラルト（独唱）
（「エルサレムの娘たち、
わたしのために泣くな。
むしろ、自分と

and for your children.")
The People.
Men and brethren, what shall we do?
We have denied the Holy and Righteous One,
and asked for a murderer to be granted to us;
we have killed the Prince of life.
Men and brethren, what shall we do?
Peter.
Repent,-
and be baptized every one of you,
in the Name of Jesus Christ;
for to you is the promise,
and to your children,
and to all that are afar off,
even as many as the Lord our God
shall call unto Him.
The People.
In the Name of Jesus Christ;
for to us is the promise,
and to our children
and to all that are afar off,
even as many as the Lord our God
shall call unto Him.
Pour upon us the Spirit of grace.
Peter.
In the Name of Jesus Christ.
The People.
Pour upon us the Spirit of grace.
All.
There shall be a fountain opened
to the house of David.
In the Name of Jesus Christ:
of His own will, God brought us forth
by the word of truth,
that should be a kind of
First-Fruits of His creatures,
in the Name of Jesus Christ,
Whom the God of our fathers
hath glorified.

自分の子供たちのために泣け。」)
群衆
兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか？
わたしたちは、聖なる正しい方を拒んで、
人殺しの男バラバを釈放するように要求し、
命への導き手である方を殺してしまいました。
兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか？
ペトロ
悔い改めなさい。
イエス・キリストの名によって
あなたがたすべてが洗礼を受けなさい。
この約束は、あなたがたにも、
あなたがたの子供にも、
遠くにいるすべての人たちにも与えられたもの。
わたしたちの神である主が招いてくださる者なら
だれにでも与えられている約束なのです。
群衆
イエス・キリストの名によって。
この約束は、われわれにも、
われわれの子供にも、
遠くにいるすべての人たちにも与えられたもの。
わたしたちの神である主が招いてくださる者なら
だれにでも与えられている約束。
わたしたちに、恵みの霊を注いでください。
ペトロ
イエス・キリストの名によって。
群衆
わたしたちに、恵みの霊を注いでください。
一同
その日、ダビデの家のために、罪と汚れを洗い
清める一つの泉が開かれる。
イエス・キリストの名によって。
神は、み心のままに、真理の言葉によって
わたしたちを生んでくださいました。
それは、わたしたちを、いわば造られたものの
初穂とするためです。
イエス・キリストの名によって。
われわれの父たちの神によって栄光の座に
あげられたイエス・キリストの名によって。

IV. THE SIGN OF HEALING.

第Ⅳ部　癒しのしるし

AT THE BEAUTIFUL GATE.

「美しい門」で

RECITATIVE. (CONTRALTO.)
Then they that gladly received his word
were baptized, and continued steadfastly
in the Apostles' teaching,
and in Fellowship,
in the Breaking of Bread,
and the Prayers;
and fear came upon every soul,
and many wonders and signs
were done by the Apostles.
The man that was lame, at the Beautiful Gate,
seeing Peter and John about to go into the
temple, asked to receive an alms; and Peter,
fastening his eyes upon him, with John,
said:-
Peter.
Look on us.
Silver and gold have I none;
but what I have, that give I thee.
In the Name of Jesus Christ of Nazareth,
rise up and walk.
The People.
This is he which sat for alms,
lame from his mother's womb.
He entereth the temple,
walking and praising God!
Peter.
Ye men of Israel,
why marvel ye at this man?
The God of Abraham, of Isaac,
and of Jacob,
the God of our fathers
hath glorified His Servant Jesus,
Whom ye delivered up:
by faith in His Name
hath His Name made this man strong,
whom ye behold and know.
John.
Unto you that fear His Name
shall the Sun of righteousness arise
with healing in His wings.
Unto you first God, having raised up His
Servant, sent Him to bless you, in turning
away every one of you from your iniquities.

レチタティーヴォ（コントラルト）
ペトロの言葉を受け入れた人々は
洗礼を受け、
使徒の教えと、
相互の交わりと、
パンを裂くことと、
祈ることに熱心であった。
すべての人に恐れが生じたが、
それは使徒たちによって多くの不思議なわざと
しるしが行われたからだった。
神殿の「美しい門」にいた、足の不自由な男が、
ペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、
施しを乞うた。ペトロは
ヨハネと一緒に彼をじっと見て、
こう言った。
ペトロ
わたしたちを見なさい。
わたしたちには金や銀はないが、
持っているものをあげよう。
ナザレの人イエス・キリストの名によって
立ち上がり、歩きなさい。
群衆
この男は、神殿の門で施しを乞うていた、
生まれながら足が不自由な男だ。
その男が境内に入ってゆき、
歩き回り、神を賛美しているではないか！
ペトロ
イスラエルの人たちよ、
なぜこのことに驚くのですか？
アブラハムの神、イサクの神、
ヤコブの神、
わたしたちの祖先の神は、
そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。
その方をあなたがたは引き渡してしまったのです。
あなたがたの見て知っているこの人を、
イエスの名が強くしました。
それはその名を信じる信仰によるものです。
ヨハネ
主の名を畏れ敬うあなたたちには
義の太陽が昇るでしょう。
主の翼には癒しの力があるのです。
神は御自分のしもべを立て、まず、あなたがた
のもとに遣わしてくださったのです。それは、
あなたがた一人一人を悪から離れさせ、その祝福に

あずからせるためでした。

Peter and John.
Turn ye again,
that your sins may be blotted out,
that so there may come seasons of refreshing
from the presence of the Lord.

ペトロとヨハネ
だから、自分の罪が消し去られるように、
悔い改めて立ち帰りなさい。
そうすれば、主のもとから、
慰めの時が訪れるのです。

THE ARREST.
RECITATIVE. (CONTRALTO.)
And as they spake, the priests and the
Sadducees came upon them, being sore
troubled, because they proclaimed in Jesus
the resurrection from the dead:
and they laid hands on them, and put them in
ward unto the morrow;
for it was now eventide.
Mary.
The sun goeth down;
Thou makest darkness,
and it is night:
I commune with mine own heart,
and meditate on Thee,
in the night watches.
Blessed are ye when men shall
Persecute you for His sake.
They deliver them up to the council,
they are hated of men
for His Name's sake;
all this is come upon them:-
some shall they kill and crucify;
Blessed are ye,
Reproached for the Name of Christ.
Rejoice, ye partakers
of His sufferings,
that when His glory shall be revealed
ye may be glad also,
with exceeding joy.
How great are Thy signs,
how mighty are Thy wonders;
Who healeth all infirmities.
The Gospel of the Kingdom
shall be preached in the whole world;
the Kingdom and patience,
which are in Jesus.

逮捕
レチタティーヴォ（コントラルト）
彼らが話をしていると、祭司たちや
サドカイ派の人々が近づいて来た。
イエスが死者の中から復活したことを、２人が
民衆に宣べ伝えているので、いらだったのである。
そこで人々は２人を捕らえて
翌日まで牢屋に入れた。
すでに日暮れだったからである。
マリア
太陽が沈みました。
主が今、闇をもたらし、
夜が訪れました。
わたしは自分の心と向かい合い、
夜の闇のなかで
ただただ主のことを思いましょう。
主のために迫害されるとき、
あなたがたは幸いです。
人々は彼らを議会に引き渡すでしょう。
彼らは主の名のために
人々から憎まれているからです。
彼らに今、それがおこりました。
ある者は殺され、ある者は十字架にかかるでしょう。
しかし、キリストの名によってののしられるとき、
あなたがたは幸いです。
喜びなさい、あなたがたは主のみ苦しみを
ともに分かつ者。
やがて主の栄光があらわれたとき、
あなたがたはきっと喜び
おおいに楽しむ者となるでしょう。
主のしるしは、いかに偉大なことでしょう。
主の奇跡は、いかに力強いことでしょう。
主は、すべての病を癒されるのです。
神の国の福音は、
世界中に宣べ伝えられることでしょう。
神の国と、忍耐とは、
すべてイエスの内にあります。

The Branch of the Lord
shall be beautiful and glorious.
Thou makest darkness,
I meditate on Thee;
in the night Thy song shall be with me
a prayer unto the God of my life.

主の枝は、
美しく繁り広がることでしょう。
主が今、闇をもたらし、夜となりました。
わたしはただただ、主のことを思います。
今宵も、主の歌がわたしとともにあり、
わたしの命の神に捧げる祈りがともにあります。

V. THE UPPER ROOM.

第Ｖ部　上の部屋

IN FELLOWSHIP.
The Disciples and the Holy Women.
The voice of joy
is in the dwelling of the righteous:
the stone which the builders rejected
is become the head of the corner.
John.
The rulers asked:
"By what power, or in what name, have
ye done this?"
Then Peter, filled with the Holy Spirit, said
"In the Name of Jesus Christ."
The Disciples and the Holy Women.
In none other is there salvation:
neither is there, under heaven,
any other name
wherein we must be saved.
Peter.
And when they took knowledge of us that we
had been with Jesus, they charged us not to
speak at all, nor teach in His Name;
we cannot but speak the things we saw and
heard.
John.
Finding nothing how they might punish us,
concerning a good deed done to an impotent
man, they further threatened us; and being
let go, we are come to our own company.
The Disciples and the Holy Women.
Lord, Thou didst make the heaven,
and the earth, and the sea,
and all that in them is.
The rulers gather together
against the Lord and His Anointed:

交わりのなかで
使徒たちと、信じて従った婦人たち
喜びの声が
神に従う人たちの住みかに満ちる。
「家を建てる者の捨てた石、
これが隅の親石となった。」
ヨハネ
支配者たちはこう尋問しました
「お前たちは何の権威によって、だれの名によって
ああいうことをしたのか？」と。
するとペトロは聖霊に満たされ、答えたのです。
「イエス・キリストの名によってです。」
使徒たちと、信じて従った婦人たち
ほかのだれによっても、救いは得られません。
わたしたちが救われるべき名は、
天下にこの名のほか、
人間には与えられていないのです。
ペトロ
役人たちは、わたしたちがイエスとともにいた
ことを知り、今後あの方の名によって誰にも
話したり教えたりするなと脅してきました。
しかしわたしたちは、見たことや聞いたことを
話さないではいられないのです。
ヨハネ
病んだ人に善い行いをしたわたしたちを、
彼らはどのように処罰してよいか分からず、
いま一度脅したうえで釈放しました。そこで
わたしたちは仲間のところに戻って来たのです。
使徒たちと、信じて従った婦人たち
主よ、あなたは、天と
地と、海と、そして
そこにあるすべてのものを造られた方です。
支配者たちは団結して、
主と、その油を注がれたイエスに逆らいました。

Lord, behold their threatenings;
grant Thy servants to speak Thy word with
all boldness,
while Thou stretchest forth Thy hand to heal.
Praise the Name of our God
That hath dealt wondrously with us.

主よ、今こそ彼らの脅しに目を留めてください。
あなたのしもべたちが、思い切って大胆に
御言葉を語ることができるようにしてください。
どうか、その御手を伸ばし、癒してください。
わたしたちの神の名をほめたたえよう。
主はわれわれに素晴らしいことをしてくださった。

THE BREAKING OF BREAD.
The Disciples and the Holy Women.
Thou. Almighty Lord, hast given
food and drink to mankind;
but to us, Thou hast vouchsafed
spiritual food and drink
and life eternal
through Thy Servant.
Peter.
If any is holy;-
The Disciples.
let him come.
Peter.
If any is not;-
The Disciples and the Holy Women.
let him repent.
Mary, Mary Magdalene, John and Peter.
In the Name of Jesus Christ.
John.
Give thanks,-
first for the Cup.
The Disciples and the Holy Women.
We thank Thee, our Father,
for the Holy Vine.
Peter.
Give thanks,-
for the Broken Bread
The Disciples and the Holy Women.
We thank Thee, our Father,
for the Life and Knowledge.
As this Broken Bread
was grain scattered upon the mountains,
and gathered together became one,
so may Thy Church be gathered together
from the bounds of the earth
into Thy Kingdom.

パンを裂く
使徒たちと、信じて従った婦人たち
全能の主よ、あなたは人間に
食物と飲み物を与えてくださいました。
しかしわれわれには、
あなたのしもべイエスをとおして、
霊的な食物と飲み物、
そして永遠の命をくださいました。
ペトロ
もしも聖なる者がくるならば、
使徒たち
その人を受け入れましょう。
ペトロ
もしもそうではない者がくるならば、
使徒たちと、信じて従った婦人たち
その人を悔い改めさせましょう。
マリア、マグダラのマリア、ヨハネ、ペトロ
イエス・キリストの名によって。
ヨハネ
まずこの聖杯に
感謝をささげよう。
使徒たちと、信じて従った婦人たち
われらの父よ、聖なるぶとうの木に
感謝します。
ペトロ
裂かれたパンに
感謝をささげよう。
使徒たちと、信じて従った婦人たち
われらの父よ、命と智恵とに
感謝します。
裂かれたこのパンは、
山々に撒かれた穀物が
集められ、ひとつになったもの。
あなたの教会もまた
地のはてからひとつに集められ
神の御国（みくに）となることでしょう。

THE PRAYERS.
All.
Our Father,
Which art in Heaven
hallowed be Thy Name;
Thy Kingdom come,
Thy will be done on earth
as it is in Heaven.
Give us this day our daily bread:
and forgive us our trespasses,
as we forgive them
that trespass against us,
and lead us not into temptation,
but deliver us from evil:
for Thine is the Kingdom,
the power, and the glory;
for ever and ever, Amen.

John.
Ye have received the Spirit of adoption,
Peter.
whereby we cry, Abba,-
Men.
Father.
All.
Thou, O Lord, art our Father,
our Redeemer,
and we are Thine.

主の祈り
一同
天におられる
わたしたちの父よ、
御名（みな）が崇められますように。
御国（みくに）が来ますように。
御心（みこころ）が行われますように、
天におけるように地の上にも。
わたしたちに必要な糧を今日与えてください。
わたしたちの負い目を赦してください。
わたしたちも自分に負い目のある人を
赦しましたように。
わたしたちを誘惑に遭わせず、
悪い者から救ってください。
神の国と、
力と、栄えとは、
限りなくあなたのものですから。アーメン。

ヨハネ
あはたたちは、子とされ、霊を受けました。
ペトロ
そこでわれわれは「アバ、父よ」と呼ぶのです。
男たち
父よ。
一同
ああ主よ、あなたこそわたしたちの父、
わたしたちの贖（あがな）い主。
　わたしたちは、あなたのもの。